

令和5年度を振り返って

法人概要

事業管理

各施設事業執行状況

研修実施内容

令和5年度 事業報告書

2023 Business report



INDEX

I 令和5年度を振り返って	2
II 法人概要	3
III 事業管理	17
IV 各施設事業執行状況	23
1. 特別養護老人ホーム美原荘 軽費老人ホーム（ケアハウス）和風荘 特別養護老人ホーム美原荘「すごうの郷」	23
2. 特別養護老人ホーム春日丘荘 特別養護老人ホーム春日丘荘「彩の家」	25
3. 特別養護老人ホーム四條畷荘 養護老人ホーム四條畷荘	27
4. 特別養護老人ホーム光明荘	29
5. 特別養護老人ホーム高槻荘	31
6. 特別養護老人ホーム白島荘	33
7. 東大阪養護老人ホーム	35
8. OSJ工房よりそいの丘	37
9. 豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなか 特別養護老人ホーム永寿園とよなか	39
10. 軽費老人ホーム（ケアハウス）豊寿荘 特別養護老人ホーム豊寿荘	41
11. 軽費老人ホーム万寿荘	43
12. 軽費老人ホーム河南荘	44
13. 障がい者支援施設みずほおおぞら 特別養護老人ホームみずほおおぞら	45
14. 介護老人保健施設かがやき	47
15. OSJ人材育成センター	49
16. 事務局	51
V 研修実施内容	53

令和5年度を振り返って

令和6年1月1日に発生しました能登半島地震において、被災された多くの皆さま方に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧がなされますことを、心よりお祈り申し上げます。

さて、令和2年1月に発生した新型コロナウイルス感染症の流行により、3年半の間ご利用者及び職員の命と健康を守るための取り組みを継続してまいりました。その一方で面会制限等によるコミュニケーションの減少や地域へのかかわりが希薄にならざるを得ない状況となり、その情報発信の方法や必要な対応について様々な工夫を行いながら、関係を継続してまいりました。そのような中、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、当法人もこれまでの経験から得られた標準予防策の徹底による感染拡大防止のための取り組みを継続しながら、面会制限の緩和、行事の再開、地域からのボランティアの受入れ等の対応について、感染症流行前の状態に段階的に戻し、より良いサービスの提供、地域との関係づくりを進めました。

そして、今まで映像配信としていたOSJぷらざは5年ぶりに対面により開催し、法人全体、職員個人、各事業の取り組みや多様性を認め合うことに焦点をあてた取り組みと成果を発表することで、職員間の交流だけでなくこれからの法人の方向性を再確認する機会となりました。

令和5年度は第二期中長期経営計画の2年目を迎え、職員・法人・地域それぞれの可能性を高めるための取り組みについて、多くの職員にかかわってもらえるよう5つのプロジェクトチームによる検討や各施設での取り組みを進めることで進捗させることができました。

特に喫緊の課題である職員の確保に関しては、随時の面接による学卒者の採用と中途採用を進めるとともに、特定技能外国人の受け入れについても、入国後によりスムーズに業務に慣れてもらうための介護技術研修を行うための現地への職員派遣、インドネシアの国立看護大学との協議を進め、卒業後に特定技能により日本で働きたいと考えているインターンシップ生の受け入れについての協定を結ぶなど、これからの安定的な人材の確保のための基盤を整えることができました。

新たな取り組みとしては、介護老人保健施設かがやきにて、退所後の在宅生活における日常生活の自立と社会参加を可能とするための連続性のあるサービス提供を目的とした訪問リハビリテーションを開始するとともに、OSJ工房よりそいの丘における既存事業の整理と、生活介護、児童発達支援事業の開始に向けた検討を進めました。施設整備については、高槻荘のデイサービスセンターの大規模改修工事や、Wi-Fi環境とインカムの整備、令和6年度以降のDX化のより一層の推進に向けての方向性を決めました。

最後になりますが、令和6年度の介護報酬改定では、地域包括ケアシステムのさらなる深化や重度化対応と自立支援、働きやすい職場環境の構築、そして、障害福祉サービスにおいては医療的ケアへの対応や重度障害者の受け入れ態勢の強化などの方向性が示されました。当法人においては、令和5年度の取り組み成果と検討してきた内容をもとに、国の方向性と中長期経営計画と合致した取り組みをより一層推進し、社会福祉法人として果たすべき役割を明確にしたうえで、その使命を果たしてまいりますので、引き続きのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

理事長 行松 英明

法人概要

1. 沿革

- 昭和46年 3月11日 社会福祉法人大阪府社会福祉事業団設立発起人会開催
大阪府民生部長畑中豊作氏を設立代表者に互選、設立準備に入る
設立認可申請書を厚生大臣に提出
役員定数を理事「9名」監事「2名」とする
- 昭和46年 3月25日 厚生省社第204号をもって認可される
- 昭和46年 3月30日 設立登記完了
第1回理事会開催
初代理事長に大阪府副知事湯川宏氏が就任
- 昭和46年 4月 1日 特別養護老人ホーム泉南特別養護老人ホーム(入所定員100名)、養護老人ホーム東大阪養護老人ホーム(入所定員150名)、軽費老人ホーム和風荘(入所定員70名)、同豊寿荘(入所定員100名)、婦人保護施設たまも寮(入所定員55名)、同あかね寮(入所定員50名)、精神薄弱者授産施設大東園(通所定員50名)の7施設の受託経営
軽費老人ホーム使用料収納事務の受託
- 昭和46年 5月17日 初代理事長湯川宏氏退任
- 昭和46年 5月18日 二代理事長畑中豊作氏就任
- 昭和46年 5月20日 軽費老人ホーム万寿荘(入所定員50名)の受託経営
- 昭和47年 5月26日 第二種社会福祉事業「医療社会福祉事業振興対策資金の貸付事業」の受託運営
- 昭和48年 4月 1日 補助金方式を委託料方式に改める
精神薄弱者授産施設大東園の通所定員「50名」を「60名」に増員
- 昭和48年 8月 1日 附帯的公益事業「老人福祉指導センター事業」の受託運営
- 昭和49年 7月24日 老人福祉指導センター事業の中に「老人機能回復訓練指導員養成事業」の追加受託
- 昭和50年 4月 1日 軽費老人ホーム河南荘(入所定員100名)の受託経営
- 昭和50年10月 1日 泉南特別養護老人ホームにおいて「在宅老人機能回復訓練事業」の実施
- 昭和51年 3月31日 二代理事長畑中豊作氏退任
- 昭和51年 4月 1日 三代理事長大阪府民生部長榎居孝氏就任
- 昭和51年 7月31日 三代理事長榎居孝氏退任
- 昭和51年 8月 1日 四代理事長浅海浩氏就任
- 昭和52年 7月 1日 特別養護老人ホーム美原荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和52年10月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和53年 7月 1日 精神薄弱者授産施設白鷺園(通所定員50名)の受託経営
- 昭和53年 8月 1日 特別養護老人ホームにおける「ねたきり老人短期入所事業」の実施
- 昭和53年11月18日 特別養護老人ホーム四条畷荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和54年 2月 1日 第二種社会福祉事業「老人総合センター」の受託経営
- 昭和54年 3月31日 附帯的公益事業「老人福祉指導センター事業」を老人総合センターに移管し廃止
- 昭和54年 6月19日 四代理事長浅海浩氏退任
- 昭和54年 6月20日 五代理事長板東義雄氏就任
- 昭和55年 3月 1日 特別養護老人ホーム光明荘(入所定員120名)の受託経営
- 昭和56年 4月 1日 役員定数、理事「9名」を「11名」とする
附帯的公益事業「社会福祉会館」の受託経営
精神薄弱者授産施設白鷺園の通所定員「50名」を「60名」に増員
- 昭和56年12月31日 婦人保護施設あかね寮(入所定員50名)の廃止

- 昭和57年 2月 1日 特別養護老人ホーム高槻荘(入所定員100名)の受託経営
- 昭和57年 6月 1日 五代理事長板東義雄氏退任
六代理事長福田順一氏就任
- 昭和60年 4月 1日 特別養護老人ホーム白島荘(入所定員90名)の受託経営
- 昭和62年 6月15日 六代理事長福田順一氏退任
- 昭和62年 6月16日 七代理事長山中治氏就任
- 昭和63年 2月 1日 事業の経営を「大阪府の委託を受けて」を「大阪府等の委託を受けて」に定款変更
- 昭和63年 3月 1日 高槻市から第二種社会福祉事業高槻市老人デイサービスセンターの受託経営
- 平成 2年 3月31日 「老人総合センター」の受託経営廃止
- 平成 2年10月 1日 特別養護老人ホーム光明荘において「家庭奉仕員派遣事業」の実施
- 平成 3年 5月24日 七代理事長山中治氏退任
- 平成 3年 5月25日 八代理事長竹内壮彦氏就任
- 平成 3年11月 1日 婦人保護施設たまも寮において「婦人保護施設退所者自立支援事業」の実施
- 平成 3年12月 1日 高槻市老人デイサービスセンターにおいて「高槻市ホームヘルプサービス事業」の実施
- 平成 4年 4月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「虚弱老人短期入所事業」の実施
- 平成 4年 6月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「老人入浴サービス事業」の実施
- 平成 4年 7月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において「茨木市ホームヘルプサービス事業」の実施
- 平成 4年 7月15日 高槻市郡家老人デイサービスセンターにおいて「在宅サービス供給ステーション事業」及び「在宅介護支援センター運営事業」の実施
- 平成 5年 4月15日 高槻市郡家老人デイサービスセンター「B型からA型」に移行に伴う「訪問事業」「配食サービス事業」の実施
- 平成 6年 1月 1日 高槻市郡家老人デイサービスセンターにおいて「高槻市身体障害者デイサービス事業」の実施
- 平成 6年10月 1日 特別養護老人ホーム光明荘において「光明荘老人デイサービスセンター」、「和泉市在宅サービス供給ステーション事業」及び「和泉市在宅介護支援センター事業」の受託経営(身体障害者デイサービスも含む)
- 平成 7年10月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「勤労意欲助長事業」の実施
- 平成 8年 3月14日 特別養護老人ホーム高槻荘において「高槻市身体障害者短期入所事業」の実施
- 平成 8年 3月31日 八代理事長竹内壮彦氏退任
- 平成 8年 4月 1日 九代理事長永井貞三郎氏就任
- 平成 8年 5月27日 役員定数、理事「11名」を「13名」とする
- 平成 8年10月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町ホームヘルプサービス事業」の実施
- 平成 9年 3月31日 婦人保護施設たまも寮受託経営廃止
- 平成 9年 4月 1日 婦人保護施設「女性自立支援センター」(入所定員150名)の受託経営
茨木市より第二種社会福祉事業「茨木市立老人福祉センター沢池荘」「茨木市立沢池老人デイサービスセンター」の受託経営
- 平成 9年 4月21日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町在宅介護支援センター事業」の受託経営
- 平成 9年 7月 1日 泉南市より第二種社会福祉事業「泉南市立老人デイサービスセンター」の受託経営
- 平成10年 3月31日 九代理事長永井貞三郎氏退任
- 平成10年 4月 1日 十代理事長 家常恵氏就任
軽費老人ホーム和風荘をケアハウスに建て替えケアハウス和風荘として受託経営
茨木市立沢池老人デイサービスセンターにおける「ホリデイサービス事業並びに時間延長事業」の実施

- 平成10年 4月 1日 特別養護老人ホーム美原荘・春日丘荘における「24時間対応(巡回型)ホームヘルパー派遣事業」の実施
特別養護老人ホーム美原荘において「ナイトケア事業及び父子家庭介護人派遣事業」の実施
特別養護老人ホーム光明荘において「和泉市身体障害者短期入所事業」の実施
特別養護老人ホーム四條畷荘において「福祉自動車送迎サービス事業」の実施
- 平成10年 6月 15日 高槻市郡家老人デイサービスセンターにおいて「訪問看護ステーション事業」の実施
- 平成10年10月 1日 泉南特別養護老人ホームにおいて「泉南市在宅介護支援センター事業」の実施
- 平成11年 5月 7日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町給食サービス事業」の実施
- 平成11年 9月 1日 泉南特別養護老人ホームにおいて「社会生活適応訓練事業」の実施
- 平成11年10月 1日 11の居宅介護支援事業所において「要介護訪問調査事業」の実施
- 平成12年 1月 6日 特別養護老人ホーム美原荘において「美原町老人デイサービス事業」の実施
- 平成12年 3月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において「老人デイサービスセンター事業」「配食サービス事業」の実施
- 平成12年 3月 31日 知的障害者授産施設大東園・白鷺園の受託経営廃止
十代理事長 家常恵氏退任
- 平成12年 4月 1日 介護老人福祉施設、短期入所生活介護、訪問介護、訪問入浴、通所介護、訪問看護事業における32介護保険事業所の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム春日丘荘において「春日丘荘在宅介護支援センター事業」の実施
- 平成12年 4月 13日 十一代理事長 興津進康氏就任
- 平成12年 5月 1日 特別養護老人ホーム白島荘において「配食サービス事業」の実施
- 平成12年 6月 22日 特別養護老人ホーム美原荘において「高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業」の実施
- 平成13年 3月 15日 特別養護老人ホーム四條畷荘において「配食サービス事業」の実施
- 平成13年10月 1日 女性自立支援センターにおいて「堺市知的障害者地域生活援助事業」の実施
- 平成14年 3月 1日 特別養護老人ホーム白島荘において痴呆対応型共同生活介護の指定を受け事業実施
- 平成14年 3月 29日 事業団出資額40,000,000円を加え、基本金を50,000,000円とする
- 平成14年 3月 31日 大阪府立施設の条例改正により6特養、1軽費の受託経営廃止
泉南特別養護老人ホームの施設廃止、及び、これに伴い、介護老人福祉施設、短期入所生活介護、通所介護、訪問介護、居宅介護支援(2ヶ所)の事業の廃止
特別養護老人ホーム高槻荘における訪問看護事業の廃止
- 平成14年 4月 1日 役員定数、理事「13名」を「9名」とする
特別養護老人ホーム美原荘、特別養護老人ホーム春日丘荘、特別養護老人ホーム四條畷荘、特別養護老人ホーム光明荘、特別養護老人ホーム高槻荘、特別養護老人ホーム白島荘、軽費老人ホーム(ケアハウス)和風荘の設置経営の為、土地及び建物を大阪府から無償譲渡を受け、自主運営を開始する
高槻市立郡家老人デイサービスセンターにおいて「精神障害者居宅介護事業」の実施
- 平成14年 8月 1日 特別養護老人ホーム美原荘において「精神障害者居宅介護事業」の実施
- 平成15年 4月 1日 短期入所、居宅介護、デイサービス、地域生活援助における15支援費事業所の指定を受け事業実施
高槻荘郡家デイサービスセンターの建物を高槻市から無償譲渡を受け、大阪府より同施設の土地を購入
特別養護老人ホーム春日丘荘において痴呆対応型共同生活介護の指定を受け事業実施
- 平成15年 7月 1日 特別養護老人ホーム高槻荘において福祉用具貸与事業の指定を受け事業実施
- 平成16年 2月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて訪問介護事業の指定を受け事業実施

- 平成16年 4月 1日 軽費老人ホーム豊寿荘の土地及び建物を大阪府から無償譲渡を受け、自主運営を開始する
茨木市立南茨木老人デイサービスセンターにおいて「老人デイサービスセンター事業」「配食サービス事業」の実施
南茨木居宅介護支援事業所において居宅介護支援事業の指定を受け事業実施
箕面市光明の郷ケアセンターにおいて「老人デイサービスセンター事業」「知的障害者デイサービス事業」の実施
特別養護老人ホーム6施設、養護老人ホーム1施設、軽費老人ホーム3施設の計10施設において社会貢献事業実施
- 平成16年12月 1日 特別養護老人ホーム高槻荘において訪問介護員養成研修事業の許可を受け事業実施
- 平成17年 3月31日 女性自立支援センターにおいて堺市知的障害者地域生活援助事業の廃止
大阪府医療社会福祉事業振興対策資金借入金利子補助事業の廃止
十一代理事長 興津進康氏退任
- 平成17年 4月 1日 東大阪養護老人ホーム及び軽費老人ホーム万寿荘、軽費老人ホーム河南荘の土地及び建物を大阪府から無償譲渡を受け、自主運営を開始する
十二代理事長 中村幹雄氏就任
- 平成17年 5月 1日 四條畷荘訪問介護事業所「ヘルパーステーションほほえみ」において「身体障害者」「知的障害者」「障害児」訪問介護事業実施
豊寿荘訪問介護事業所「ゆたか」において「精神障害者居宅介護等事業」の実施
- 平成17年 7月 1日 軽費老人ホーム豊寿荘をケアハウスに建て替えケアハウス豊寿荘として事業実施
- 平成17年10月 1日 軽費老人ホーム(ケアハウス)豊寿荘において特定施設入居者生活介護事業実施
- 平成18年 3月 1日 軽費老人ホーム(ケアハウス)和風荘において特定施設入居者生活介護事業実施
- 平成18年 3月31日 大阪府立女性自立支援センター事業運営終了
大阪府社会福祉会館の会館運営終了
- 平成18年 4月 1日 特別養護老人ホーム「豊寿荘」(入所定員50名)事業実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「短期入所生活介護事業」の実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「通所介護事業」の実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「診療所ゆたか」の開設
特別養護老人ホーム四條畷荘において地域包括支援センター事業の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム光明荘において地域包括支援センター事業の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム高槻荘において地域包括支援センター事業の指定を受け事業実施
白島荘グループホーム「華の家」において「短期利用共同生活介護事業」の実施
美原荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
四條畷荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
光明荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
白島荘訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
短期入所生活介護、訪問介護、訪問入浴、通所介護、特定施設入居者生活介護、福祉用具貸与事業における24介護予防事業所の指定を受け事業実施
- 平成18年 6月 1日 東大阪養護老人ホーム訪問介護事業所において「福祉有償運送事業」の実施
豊寿荘デイサービスセンター「ゆたか」において「介護予防通所介護事業」の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム豊寿荘において「介護予防短期入所生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成18年 9月30日 光明荘デイサービスセンターにおいて実施していた「介護予防通所介護事業」の廃止
美原荘、四條畷荘、高槻荘、豊寿荘において実施していた障害福祉サービス事業「外出介護事業」の廃止

- 平成18年10月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業」「外部サービス利用型介護予防特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
美原荘、春日丘荘、四條畷荘、光明荘、高槻荘、豊寿荘の訪問介護事業所にて障害福祉サービス「重度訪問介護」の指定を受け事業実施
光明荘デイサービスセンターにおいて「障害福祉サービス基準該当生活介護事業」の実施
美原荘訪問介護事業所において「地域生活支援事業移動支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成19年 3月 1日 白島荘グループホーム「華の家」において「認知症対応型通所介護事業」「介護予防認知症対応型通所介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成19年 3月31日 特別養護老人ホーム美原荘における「訪問入浴事業」の廃止
美原荘、光明荘、光明の郷ケアセンターにおける「障害者デイサービス事業」の廃止
- 平成19年 4月 1日 美原荘デイサービスセンターにおいて「障害福祉サービス基準該当生活介護事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「障害福祉サービス基準該当生活介護事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「地域活動支援センター事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「入浴サービス事業」の実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「日中一時支援事業」の実施
- 平成19年 6月 1日 春日丘荘ヘルパーステーションにおいて「産前・産後ホームヘルパー事業」の実施
- 平成19年11月26日 特別養護老人ホーム四條畷荘竣工
- 平成20年 1月 1日 特別養護老人ホーム四條畷荘において「通所介護事業」の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム四條畷荘において「四條畷荘診療所」の開設
- 平成20年 2月 1日 養護老人ホーム四條畷荘(入所定員50名)事業実施
養護老人ホーム四條畷荘において「外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成20年 3月31日 高槻荘における障害福祉サービス「経過的サービス事業」の廃止
- 平成20年 4月 1日 箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて「白島荘小規模多機能型居宅介護事業所「ひねもす」」の指定を受け事業実施
- 平成20年 8月 1日 軽費老人ホーム(ケアハウス)豊寿荘において「介護予防特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成21年 3月31日 特別養護老人ホーム白島荘における「配食サービス事業」の廃止
- 平成21年 4月 1日 万寿荘において池田市立敬老会館での「老人福祉センター事業」の指定管理者の指定を受け事業実施
特別養護老人ホーム春日丘荘において「地域包括支援センター事業」の指定を受け事業実施
- 平成22年 3月15日 特別養護老人ホーム春日丘荘リニューアルオープン
- 平成22年 3月31日 特別養護老人ホーム美原荘における「配食サービス事業」の廃止
十二代理事長 中村幹雄氏退任
- 平成22年 4月 1日 十三代理事長 高木哲夫氏就任
- 平成22年 5月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において保険診療の開始
高槻荘において「認知症対応型通所介護事業」「介護予防認知症対応型通所介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成22年 6月 1日 春日丘荘グループホームにおいて「介護予防認知症対応型共同生活介護事業」「認知症対応型通所介護事業」「介護予防認知症対応型通所介護事業」の指定を受け事業実施
春日丘荘ヘルパーステーションにおいて「茨木市高齢者でいっしょサービス事業」実施
- 平成22年 9月 1日 特別養護老人ホーム美原荘、ケアハウス和風荘リニューアルオープン
特別養護老人ホーム美原荘において保険診療の開設

- 平成23年 3月 1日 特別養護老人ホーム春日丘荘において、「地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護事業」、「短期入所生活介護事業」、「小規模多機能型居宅介護事業」、「認知症対応型通所介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成23年 4月 1日 堺市において堺市立北老人福祉センター、東老人福祉センター、堺市立美原総合福祉会館・美原老人福祉センターの指定管理者の指定を受け事業実施
- 平成23年 4月30日 高槻荘における「福祉用具貸与・介護予防福祉用具貸与事業」の廃止
- 平成24年 3月31日 美原荘における「在宅介護支援センター運営事業」の廃止
東大阪養護老人ホームにおける「在宅介護支援事業」の廃止
- 平成24年 4月 1日 美原荘において「地域包括支援センター事業」の指定を受け事業実施
- 平成24年 4月 2日 東大阪養護老人ホーム移転先土地の購入
- 平成24年 8月 1日 光明荘デイサービスセンター、在宅サービス棟リニューアルオープン
- 平成24年 9月21日 大阪府よりサービス管理者責任者等研修事業者の指定を受け事業実施
- 平成24年10月 1日 美原荘において「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」の指定を受け事業実施
- 平成25年 1月15日 特別養護老人ホーム永寿園とよなか新築工事の竣工
- 平成25年 2月 8日 特別養護老人ホーム白鳥荘建て替え工事
- 平成25年 3月 1日 永寿園とよなかにおいて「地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護事業」、「通所介護事業」、「短期入所生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成25年 3月27日 基本金の一部10,000,000円を大阪府へ返還し、基本金40,000,000円とする
- 平成25年 3月31日 特別養護老人ホーム光明荘リニューアル工事の竣工
- 平成25年 4月 1日 豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなかの指定管理者の指定を受け事業実施及び「外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業」の指定を受け事業実施
春日丘荘において茨木市立老人福祉センター南茨木荘、茨木市立老人福祉センター桑田荘での老人福祉センター事業の指定管理者の指定を受け事業実施
大阪府より介護員養成研修(介護職員初任者研修課程)事業者の指定を受け事業実施
- 平成25年 7月17日 大阪府より相談支援従事者(初任者及び現任者)研修事業者の指定を受け事業実施
- 平成25年10月31日 東大阪養護老人ホーム建替え工事の竣工
- 平成25年12月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「通所介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成26年 2月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「在宅介護支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成26年 7月31日 特別養護老人ホーム白鳥荘建替え等工事の竣工
- 平成26年 8月 1日 OSJ工房よりそいの丘において「就労継続支援A型事業」及び「就労継続支援B型事業」の指定を受け事業実施
- 平成26年 8月 5日 法人事務局を大阪市中央区から箕面市に移転
OSJ研修・研究センター設立
- 平成26年10月20日 高槻市において高槻荘地域密着型サービス施設新築等工事の着工
堺市において、地域密着型特別養護老人ホーム(仮称)すごう新築工事の着工
- 平成26年12月 1日 白鳥荘において「計画相談支援事業」及び「障害児相談支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年 2月13日 万寿荘における「在宅介護支援事業」の廃止
- 平成27年 4月 1日 茨木市において、沢池多世代交流センター、南茨木多世代交流センターの指定管理の指定を受け事業実施
みずほ・おおぞらにおいて、「生活介護事業」、「就労継続支援B型事業」、「短期入所事業」、「日中一時支援事業」、「計画相談支援事業」、「地域移行支援事業」、「地域定着支援事業」、「障害児相談支援事業」の指定を受け事業実施

- 平成27年 7月24日 高槻市において高槻荘地域密着型サービス施設新築等工事の竣工
- 平成27年 8月 1日 高槻荘において、「小規模多機能型居宅介護事業」及び「認知症対応型共同生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年 9月15日 堺市において、地域密着型特別養護老人ホーム(仮称)すごう新築工事の竣工
- 平成27年 9月28日 四條畷荘において「四條畷荘いっぷくステーション『よろか』」を開始
- 平成27年10月 1日 四條畷荘において「短期入所事業」の指定を受け事業実施
美原荘において、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業」、「短期入所生活介護事業」、「認知症対応型共同生活介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年10月 5日 豊中市において、障がい者、高齢者福祉サービス施設(仮称)みずほおおぞら園新築工事の着工
- 平成27年11月 1日 豊寿荘において、新千里東町に「居宅介護支援事業」「訪問介護事業」の指定を受け事業実施
- 平成27年12月 1日 豊寿荘において、新千里東町で「あいあい食堂」を開始
- 平成27年12月31日 永寿園とよなかにおいて、「老人デイサービス事業」を廃止
- 平成28年 4月 1日 豊寿荘において、原田介護予防センター、服部介護予防センターの事業を実施するとともに、各介護予防センター内において、「通所介護事業」の指定を受け事業実施
東大阪養護老人ホームにおいて、「地域包括支援センター事業」の指定を受け事業実施
OSJ工房よりそいの丘において、「特定相談支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成28年 8月 1日 みずほおおぞらにおいて、「施設入所支援事業」、「就労継続支援A型事業」の指定を受け事業を実施、また、島江町「生活介護事業」、「就労継続支援B型事業」、「計画相談支援事業」、「地域移行支援事業」、「地域定着支援事業」、「障害児相談支援事業」を、また、稲津町から「短期入所事業」、「日中一時支援事業」、を同所に移転
- 平成28年 9月 1日 みずほおおぞらにおいて、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業」、「短期入所生活介護事業」の指定を受け事業実施
箕面市立光明の郷ケアセンターにおいて、「生活介護事業」の指定を受け事業実施
河南荘において「福祉有償運送事業」の実施
- 平成28年12月 1日 永寿園とよなかにおいて「企業主導型保育事業」の実施
- 平成29年 3月31日 十三代理事長 高木哲夫氏退任
- 平成29年 4月 1日 十四代理事長 行松英明氏就任
役員定数、理事「9名」を「6名」とする
豊寿荘において、千里介護予防センター、柴原介護予防センター、庄内介護予防センターの事業実施
豊寿荘において、原田介護予防センター内で「居宅介護支援事業」の指定を受け事業実施
みずほおおぞらにおいて、豊中市から「生活介護事業」を引継ぎ事業実施
- 平成29年 5月 1日 光明荘において、「認知症機能強化型地域包括支援センター」の委託を受け事業実施
- 平成29年10月 1日 OSJ工房よりそいの丘において、「委託相談支援事業」の委託を受け事業実施
- 平成29年11月 1日 豊寿荘において、原田介護予防センター内で「通所型サービスA」の指定を受け事業実施
- 平成30年 3月 1日 豊寿荘において、原田介護予防センター内で「企業主導型保育事業」の実施
- 平成30年 8月 1日 診療所ゆたかにおいて、「訪問リハビリテーション事業」の指定を受け事業実施
- 平成30年 9月 1日 豊寿荘訪問介護事業所「ゆたか」並びに「ひがしまち」において、「移動支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成30年12月 1日 白鳥荘において、「移動支援事業」の指定を受け事業実施
- 平成31年 1月 1日 春日丘荘において訪問型サービスA(緩和)の指定を受け、事業実施
- 平成31年 3月31日 高槻荘における、「訪問入浴介護」の事業を廃止
- 平成31年 4月 1日 豊寿荘において、高川介護予防センターの事業実施
豊寿荘において、高川介護予防センター内で「通所介護」「通所介護相当」の指定を受け、事業実施
春日丘荘において玉櫛・水尾地域における「地域包括支援センター事業」の委託を受け事業実施

- 平成31年 4月 1日 光明荘において「通所介護相当サービス」の指定を受け事業実施
光明荘において「訪問介護相当サービス」の指定を受け事業実施
白島荘において、「居宅介護(障がい)」「重度訪問介護(障がい)」の指定を受け事業実施
- 令和 元年 5月 1日 白島荘において、箕面市立光明の郷ケアセンターにおける「日中一時支援」「入浴サービス事業」の事業を廃止
光明荘において「訪問看護」の指定を受け事業実施
- 令和 元年10月 1日 東大阪養護老人ホームにおいて「居宅介護(障がい)」「重度訪問介護(障がい)」「移動支援」の指定を受け事業実施
- 令和 元年10月18日 特別養護老人ホーム高槻荘の大規模改修工事の着工
- 令和 元年12月 1日 豊寿荘において、庄内介護予防センター内で「居宅介護支援」の指定を受け事業実施
- 令和 2年 3月 1日 白島荘において箕面市立光明の郷ケアセンターにおける「共生型生活介護」の指定を受け事業実施
- 令和 2年 4月 1日 かがやきにおいて、「介護老人保健施設」、「通所リハビリテーション」、「居宅介護支援」の指定を受け事業実施
かがやきにおいて豊中市北西部圏域における「地域包括支援センター事業」の委託を受け事業実施
かがやきにおいて、一般財団法人豊中市医療保健センターとの協働事業として「とよなか人材育成センター」の事業実施
白島荘において箕面市東部における「地域包括支援センター事業」の委託を受け事業実施
- 令和 2年 7月 1日 豊寿荘において、通所訪問型短期集中サービス事業の委託を受け事業実施
- 令和 3年 4月 1日 かがやきにおいて、とよなか人材育成センターにおける介護福祉士養成施設「OSJとよなかケアスクール」を開始
- 令和 3年 4月 1日 高槻荘において「高槻荘ホームヘルパーステーション桃園」「高槻荘訪問看護ステーション桃園」「高槻荘ケアプランセンター桃園」を開始
- 令和 3年 7月30日 特別養護老人ホーム高槻荘の大規模改修工事の竣工
- 令和 4年 4月 1日 組織改編によりOSJ人材育成センターを設置
OSJ人材育成センターにおいて、OSJ日本語アカデミーとよなかを開校
みずほおおぞらにおいて、豊中市立障害福祉センターひまわりの施設運営管理および柴原障害者相談支援センター事業の委託を受け事業実施
春日丘荘において沢池・西地域における「地域包括支援センター事業(圏域型)」、天王・東奈良地域における「地域包括支援センター事業(エリア型)」の指定を受け事業実施
- 令和 4年11月10日 特定技能制度における登録支援機関として登録
- 令和 4年12月 1日 老人保健施設かがやき 通所リハビリテーション事業にてリハビリ特化型サービスの事業実施
- 令和 5年 3月 1日 有料職業紹介事業の許可を受け事業実施
- 令和 5年 7月 1日 組織改編によりOSJ工房よりそいの丘を設置
- 令和 5年 8月 1日 老人保健施設かがやきにおいて「訪問リハビリテーション」の指定を受け事業実施
- 令和 5年11月 1日 高槻荘グループホーム「ゆらら」にて「共用型デイサービス」の指定を受け事業実施
- 令和 6年 2月28日 高槻荘郡家デイサービスセンターの大規模改修工事の竣工
- 令和 6年 3月31日 OSJ工房よりそいの丘における「就労継続支援A型」の事業を廃止

2. 評議員会

回	開催年月日	出席者数	議案項目
1	令和5年6月28日	6名	第1号議案 理事の選任 第2号議案 監事の選任 第3号議案 会計監査人の選任（現会計監査人を再任しないこと） 報告案件 第1号 令和4年度事業報告 第2号 令和4年度収入支出決算 第3号 社会福祉充実残額
2	令和5年12月28日	7名	第1号議案 OSJ工房よりそのの丘における新規事業の実施に伴う定款変更 第2号議案 理事の選任
3	令和6年3月29日	7名	第1号議案 役員等報酬規程の一部改正

3. 理事会

回	開催年月日	出席者数	議案項目
1	令和5年6月9日	理事 6名 監事 2名	第1号議案 令和4年度事業報告 第2号議案 令和4年度収入支出決算 第3号議案 令和5年度収入支出予算の補正 第4号議案 経理規程の一部改正 第5号議案 公益財団法人JKA補助事業の実施 第6号議案 組織改編に伴う処務規則の一部改正 第7号議案 職員の職の設置に関する規則の一部改正 第8号議案 公印管理規程の一部改正 第9号議案 文書規程の一部改正 第10号議案 職員の給与に関する規則の一部改正 第11号議案 施設長の任免 第12号議案 会計監査人候補者の選任（現会計監査人を再任しないこと） 第13号議案 評議員候補者の選任 第14号議案 評議員選任・解任委員会の招集 第15号議案 理事候補者の選任 第16号議案 監事候補者の選任 第17号議案 評議員会の招集 報告案件 第1号 社会福祉充実残額 第2号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況
2	令和5年6月28日	理事 5名 監事 2名	第1号議案 理事長の選定 第2号議案 業務執行理事（専務理事）の選定 第3号議案 メンテナンス付カーテン賃貸借契約 第4号議案 介護用ベッド等売買契約の締結

回	開催年月日	出席者数	議案項目
3	令和5年9月29日	理事 5名 監事 2名	第1号議案 四條畷市第1圏域地域包括支援センターの委託契約 第2号議案 高槻荘郡家デイサービスセンター改修工事 第3号議案 令和5年度収入支出予算の補正 第4号議案 経理規程の一部改正 第5号議案 定款施行細則の一部改正 第6号議案 施設整備委員会設置要綱の一部改正 第7号議案 職員の給与に関する規則の一部改正 第8号議案 パートタイマー・アルバイト就業規則の一部改正 第9号議案 マスター職員就業規則の一部改正 報告案件 第1号 令和5年度収入支出決算（7月末） 第2号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況
4	令和5年10月17日	理事 6名 監事 2名	第1号議案 施設整備委員会の設置と一部権限委任

4. 監事監査

監事は、法令、定款及び監事監査規程に基づき、理事の職務執行を監査し、計算関係書類及び事業報告並びにこれらの附属明細書について適正に作成されているか監査を行い、監査報告を作成した。

監事監査日：令和5年5月29日

5. 評議員一覧

委嘱名	氏名
評議員	田中 進
評議員	西田 孝司
評議員	川西 利則
評議員	関川 芳孝
評議員	中谷 敬子
評議員	山田 忠男
評議員	関家 鉄一

6. 役員一覧

委嘱名	氏名
理事	行松 英明
理事	荒田 房生
理事	山上 幸雄
理事	佐藤 眞一
理事	齊藤 慎一郎
理事	大江 裕
監事	葭矢 忠
監事	武本 勝司

7. 施設長・副施設長合同会議

回	開催年月日	議案項目
1	令和5年4月7日	1 ブロック本部長 新副施設長 新事務長 紹介 2 各施設長・副施設長・事務長 自己紹介及び今年度の重点取り組みについて 3 居宅介護支援事業所における介護支援専門員の退職に伴うプランの取扱いについて 4 大阪府社会福祉施設等従事者支援事業の申請手続きにおける不備について 5 障がい者雇用状況について 6 令和5年度体制について

8. 施設長会議

回	開催年月日	議案項目
1	令和5年6月15日	1 法人の自然災害対策について 2 令和4年度PT報告について 3 令和5年度第1回理事会報告について 4 Valueの制定について
2	令和5年8月24日	1 地域における公益的な取組の更なる推進に向けて 2 介護DX化基本方針の策定について 3 通勤手当等の見直しについて 4 特定技能外国人の受け入れについて 5 介護ラダーの導入に向けて
3	令和5年10月26日	1 新人事制度策定PT中間報告について 2 職員が笑顔で楽しく仕事ができる方法について 3 理事会の報告について 4 職員評価制度の見直しについて 5 OSJぶらざ開催について
4	令和5年12月21日	1 豊中市福祉部福祉指導監査課による改善指導の視点について 2 電気受給契約について 3 令和6年度事業計画ヒアリングを受けて 4 雇用促進PTより 5 令和6年度報酬改定情報を受けて
5	令和6年2月15日	1 職員確保の取り組みについて 2 令和5年度補正予算および令和5年度当初予算の概要について 3 令和6年介護職員処遇改善支援補助金等を原資とした職員への支給方法について
6	令和6年3月18日	1 令和6年度人事異動について 2 令和5年度末退職者および令和6年度辞令交付日程について 3 施設表彰について

9. 副施設長会議

回	開催年月日	議案項目
1	令和5年5月2日	<ul style="list-style-type: none"> 1 経営課題解決に向けた取り組み報告について 2 食事提供等の基本的な確認事項の徹底について 3 令和5年度内部監査のあり方について 4 各施設の感染状況及び感染対策について 5 経理業務の管理について
2	令和5年6月1日	<ul style="list-style-type: none"> 1 経営課題解決に向けた取り組み報告について 2 喉詰り事故における対応策の進捗について 3 令和5年度内部監査のあり方について 4 令和4年度事業報告及び決算概要について 5 各施設の感染状況及び感染対策について 6 新規採用職員の教育期間ガイドラインについて 7 法定時間外勤務に従事する際の休憩時間の確保について
3	令和5年7月6日	<ul style="list-style-type: none"> 1 経営課題解決に向けた取り組み報告について 2 特別養護老人ホームにおける不適切ケアについて 3 令和5年度総合防災訓練について 4 業者選定結果について 5 今後のグループウェア・ワークフローの利用について 6 認知症介護基礎研修について 7 各施設の感染状況及び感染対策について
4	令和5年8月3日	<ul style="list-style-type: none"> 1 経営課題解決に向けた取り組み報告について 2 サービスの質の向上に向けた取り組みについて 3 ナレッジスイートの今後の展開について 4 社会福祉士等実習生の受け入れについて 5 令和5年度敬老祝賀会について 6 みずほおそらの喉詰り事故の経過報告について
5	令和5年9月7日	<ul style="list-style-type: none"> 1 経営課題解決に向けた取り組み報告について 2 サービスの質の向上に向けた取り組みについて 3 令和5年度総合防災訓練の振り返り 4 大阪府の最低賃金見直しに係る法人の対応について 5 令和5年度ストレスチェックの概要及びスケジュールについて 6 研修・研究センターより 7 LIFEデータ等活用推進PTより
6	令和5年10月5日	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和6年度事業計画について 2 補正予算及び当初予算作成のスケジュールについて 3 業者選定について 4 インボイス制度開始に伴う法人の対応について 5 人事ヒアリングスケジュールについて 6 専門職会議について 7 法人全体の実績、予定 8 採算表による前月見込みと当月予定の報告 9 課題事業に関する前月の取り組み報告 10 課題事業に関する当月予定の報告と計画内容のブラッシュアップ

回	開催年月日	議案項目
7	令和5年11月2日	<ul style="list-style-type: none"> 1 伝達研修 全事協研修「職場内における心理的安全性について」 ～Z世代と共に働きやすい職場を築くために～ 2 虐待防止月間の取り組みについて 3 内部監査の報告について 4 令和6年度予算目標値について 5 今後の法人感染症対策について 6 ホームページの統一化について 7 寄付の募集について 8 法人全体の実績、予定 9 採算表による前月見込みと当月予定の報告 10 課題事業に関する前月の取り組み報告 11 課題事業に関する当月予定の報告と計画内容のブラッシュアップ
8	令和5年12月7日	<ul style="list-style-type: none"> 1 ファイルサーバーの見直し及びパソコンの一括購入について 2 不適切ケアについて 3 業者選定について 4 職員満足度調査について 5 法人全体の実績、予定 6 採算表による前月見込みと当月予定の報告 7 課題事業に関する前月の取り組み報告 8 課題事業に関する当月予定の報告と計画内容のブラッシュアップ
9	令和6年1月11日	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和5年度ストレスチェック結果について 2 虐待防止に係る取り組みについて 3 感染症発生状況及び感染症対策について 4 おむつ業者契約更新（予定）について 5 安否確認訓練について 6 契約更新の流れについて 7 WEB年末調整・WEB給与明細等のシステム導入について 8 介護DX化に係る今後の進め方について 9 法人全体の実績、予定 10 採算表による前月見込みと当月予定の報告 11 課題事業に関する前月の取り組み報告 12 課題事業に関する当月予定の報告と計画内容のブラッシュアップ
10	令和6年2月1日	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和5年度決算について 2 人事考課に係るスケジュールについて 3 感染状況及び感染対策について 4 OSJぷらざの参加者募集について 5 法人全体の実績、予定 6 採算表による前月見込みと当月予定の報告 7 課題事業に関する前月の取り組み報告 8 課題事業に関する当月予定の報告と計画内容のブラッシュアップ
11	令和6年3月7日	<ul style="list-style-type: none"> 1 ICT機器等プロポーザルについて 2 安否確認訓練報告 3 令和6年度からの給食費値上げについて 4 修学支援のためのご寄附のお願い 5 令和5年度決算事務連絡（再案内） 6 法人全体の実績、予定 7 採算表による前月見込みと当月予定の報告 8 課題事業に関する前月の取り組み報告 9 課題事業に関する当月予定の報告と計画内容のブラッシュアップ

法人理念

Mission — 法人の使命 —

**私たちはつながるすべての人の夢を応援し、
すべての人の幸せを支え続けます**

創立 50 年を迎えた私たち社会福祉法人大阪府社会福祉事業団は、これまで、いま、そして、これからも、つながるすべての職員とすべての地域の方々の夢を応援し、幸せを支え続けることを使命に存在していきます。

OSJ Vision 2031

可能性を高め、地域とともに躍動する法人へ

「可能性」には潜在的な発展性という意味が含まれています。
私たち大阪府社会福祉事業団は、職員の持つ可能性を高め、法人の持つ可能性を高め、そして、地域の持つ可能性を高めていくために、これからもたゆまぬ取り組みを続け、地域共生社会の実現のため地域とともに躍動できる社会福祉法人を目指します。

Value (行動指針)

「よりそう想い つながる心」



事業管理

1. 新たな取り組み

(1) 新規事業への取り組み

1. OSJとよなかケアスクールが、大阪府より専修学校の認可を得ることができた。
2. 介護老人保健施設かがやきにおいて、継続的な在宅復帰・在宅復帰後の包括的な支援が可能となるよう、訪問リハビリテーション事業を開始した。
3. 万寿荘において、令和6年4月からご入居者の重度化対応と施設生活の継続の一助となるよう、訪問介護事業の開始に向けて準備した。
4. 四條畷市において、くすのき広域連合解散による圏域の見直しに伴う地域包括支援センターの再選定に応募し選定を受けることができた。

(2) OSJ工房よりそいの丘における取り組み

1. OSJ工房よりそいの丘の事業全体の見直しを行い、今後の在り方について検討を重ね、就労継続支援A型事業を廃止し、令和6年4月より生活介護事業を開始するための準備を進め指定を受けるとともに、令和6年7月に事業開始を予定している、児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業の準備を進めた。
2. 新規事業開始に向けて改修工事を進めるとともに、専門業務の強化を図るため、大阪府障害者福祉事業団との人事交流に向けて協議を重ねる。

2. 職員確保、定着等のための取り組み

(1) 職員確保のための取り組み

1. インターンシップの活用や定期的な学校訪問、インターネット求人媒体を有効活用し28名の学卒者の内定に繋げることができた。
2. 地域からの雇用に繋げるため、ハローワーク等と雇用促進のイベントに施設職員とともに参加することで受け入れ体制が強化され、介護・生活支援業務の経験のない方の採用につながった。
3. とよなかケアスクールにおいて、介護福祉士養成カリキュラムに加え、来年度の外国人学生の入学に向けて、日本語を教えられる教員の採用募集を行い、登校日に日本語の勉強ができる仕組み作りを進めた。
4. 特定技能外国人の受け入れを進めるとともに、現地教育機関との協定にもとづき、当法人の職員を派遣し特定技能外国人への実技指導を行い介護スキル向上に取り組む。
5. インドネシアの国立看護大学とのインターンシッププログラムを進めるための協議と学生への面接を実施し、来年度の夏から受け入れるための体制を構築する。

2. 職員確保、定着等のための取り組み

(2) 働きやすい環境作りに向けた取り組み

1. 職員の負担軽減、業務効率化を図るためのICT等機器導入のため、全施設同水準のWi-Fi環境の整備、インカムの導入を開始した。
2. 段階的に介護支援技術を向上させるためのラダーシステムを試験的に導入し、来年度の本導入に向けてその効果検証を行った。
3. タイムリーな情報共有・業務省力化を目的としたグループウェア及びワークフローシステムの運用を開始した。
4. 職員の健康管理を経営的視点としてとらえた取り組みにより、健康経営優良法人の認証を取得することができた。
5. 外部委託業者による職員のストレスチェックやカウンセリング、職員満足度アンケートを実施し、その結果をもとにSNSを活用した相談窓口の設置及び計画的な改善策を実施した。

(3) その他の取り組み

1. OSJ公式TikTokerの選任やOSJ公式マスコットキャラクターの作成など、法人のブランディングの取り組みを進めた。
2. 大阪府社会福祉協議会主催の高齢者福祉実践・研究大会inOSAKAにて白島荘の「眠りスキャンで睡眠を科学！私らしく暮らす24Hシートへのブラッシュアップ！」、高槻荘の「LIFEデータを利活用したケアの展開」について対外的に発表することができた。
3. 全国社会福祉事業団協議会の実践報告・実務研究論文にて白島荘（光明の郷）の「コンサルテーションから導かれた強度行動障害のある方への支援」、東大阪養護老人ホームの「養護老人ホームにおける初めての看取りケア」が佳作入選となった。

3. 経営基盤の安定のための取り組み

(1) ICT・DX化への取り組み

1. グループウェアシステムを導入し、法人内の情報伝達における迅速な対応、業務効率化を図れた。
2. 春日丘荘、四條畷荘、白島荘、よりそいの丘においてWi-Fi環境の整備、インカムの導入により、職員間の情報伝達及び業務改善につながった。
3. 排泄支援機器や見守り機器を導入し、データ分析を活用することで、24時間シートの見直しを含めた個別支援の充実を図ることができた。
4. 勤務表自動作成ソフトを導入し、勤務表作成時間の大幅な短縮が行え、業務改善を図ることができた。

(2) 質の高いサービス提供への取り組み

1. 通所介護事業の安定化に向け、毎月2回以上サービス内容及び業務改善等について生活相談員同士で議論する場を設け、その結果利用率向上、サービスの質の向上につながった。
2. 定期の内部監査に加え、不適切な支援及び虐待事案の再発防止のため、コンプライアンス委員会を中心に各職員に対する虐待防止への理解度を図る面談等を含めた臨時の内部監査を実施した。
3. 保育サービスの質を高めるため、NPO法人国際臨床保育研究所と講師契約を行い、保育サービス及び保育環境の指導を受け、サービス内容等の見直しを実施した。
4. 看取りケアの更なる充実のためのACP研修を実施するとともに、看取りの指針、マニュアルの見直しを行った。

4. 多様化するリスクに対応できる体制の構築について

(1) 新型コロナウイルス感染症予防策

1. 5類移行及びそれに伴う大阪府の対応を踏まえつつ、医学的側面からのリスクも考慮しながら、面会等における制限の緩和、陽性者の療養期間や濃厚接触者の取り扱いの見直しを段階的に行い、各施設の感染状況等が一目でわかる情報を共有することができた。
2. 大阪府内の感染状況に応じた注意喚起、適宜感染対策に関する研修を実施した。また、法人内感染症マニュアルの改訂、感染発生時の指摘内容等を法人内で共有するとともに、法人全体でBCP（事業継続計画）を更新した。

(2) 災害発生時に備えた取り組み

1. 法人全事業において、災害が発生しても継続して事業運営ができるよう、BCP（事業継続計画）を作成しシミュレーションを実施した。
2. 備蓄品リストの内容について、能登半島地震での災害派遣の経験を通して学んだ必要物品も考慮した災害備蓄品（食料・水分等の確保期間等）を見直した。
3. 総合防災訓練の際に、グループウェアを活用し、法人の全職員の安否確認訓練を実施した。
4. 非常災害時の電力確保のための非常用発電機について、来年度に四條畷荘、春日丘荘、白島荘の協議申請をし、設置に向けて準備を進めた。

5. 施設整備・保全計画の実施

1. 全施設同水準のWi-Fi環境を整備するための工事を実施した。
2. 美原荘、和風荘について小荷物昇降機改修工事を実施した。
3. 豊寿荘にてボイラー取り換え工事を実施した。
4. 万寿荘の大規模改修及び新設工事の基本構想を検討した。
5. 高槻荘デイサービスの大規模改修工事について、令和5年10月2日に着工、令和6年2月29日竣工。
6. 美原荘、春日丘荘、光明荘において、来年度、補助金を活用した個室化改修工事に向けて準備を進めた。

6. その他の取り組み

1. 石川県能登半島地震発生に伴い、26名（延べ143日）の応援派遣を行った。
2. 石川県社会福祉事業団、大阪府社会福祉協議会に合計1,007,430円の義援金を贈ることができた。
3. OSJぷらざを5年ぶりに対面で開催し、法人全体や各事業の取り組み、「多様性」、「個性の耀き」に焦点をあてた成果を発表することができた。
4. 令和6年度の報酬改定に備え、各事業の管理者に向けての勉強会を開催し、必要となる準備、運営方法について検討した。

7. 内部管理体制の運用状況

1. 内部監査の実施

実施時期：(1)令和5年7月12日～9月28日

(2)令和6年2月5日～3月12日

実施対象：(1)16施設

(2)13施設

実施回数：(1)22回

(2)14回

2. 業務の適正を確保するための体制

（社会福祉法第45条の13第4項第5号）として、「内部管理体制の基本方針」

（平成29年5月29日理事会決議）に基づき、内部管理体制を運用する。

3. 会計監査人監査の実施

実施日：令和5年9月22日 令和5年10月30日 令和5年10月31日 令和5年12月19日

令和5年12月20日 令和6年1月22日 令和6年1月23日 令和6年2月7日

令和6年3月5日

8. 第二期中長期経営計画の進捗について

第二期中長期経営計画を着実に進捗させるため、今年度は5つのプロジェクトチーム（PT）を立ち上げ、今年度からの取り組みに位置付けられた内容のうち、重点的に検討しなければならない内容について、多くの職員にかかわってもらいながら、課題の共有、各種調査、検討を進めることができた。

PT名	主な取り組み内容	成果
広報PT	ブランディングの構築と発信	広報PTでは、法人公式TikTokerを選任し、事業団の魅力や取り組みを法人内外を問わず、幅広くアピールすることができた。また、法人マスコットキャラクターの作成を行い、法人の認知度をさらに高めた。
新人事制度策定PT	エリア職の在り方の見直し	新人事制度PTでは、昇給制度について、特定職員を含めた幅広い職員がキャリアアップできる仕組みを検討するとともに、職員の働きやすさやモチベーション向上を目指した制度改定を検討できた。
LIFEデータ等利活用推進PT	LIFE利活用のロールモデル作成	LIFEデータ等利活用推進PTでは、次年度の報酬改定を見据え、さらなるLIFEフィードバックデータの活用に向け、各事業でLIFEを活用したロールモデルを作成し、法人内外に発信できるHPの作成を進めた。
介護DX化PT	介護DX化推進マニュアルの作成	介護DX化PTでは、OSJ研修・研究センターと連携し、ICTリテラシーの研修の準備を進めるとともに「介護DX化推進マニュアル」の作成を行い、DX化の推進を図った。
雇用促進PT	リファラル採用の推進	雇用促進PTでは、リファラル採用を推進するため、グループウェアを活用した配信、法人の概要や資格制度の内容を動画化し幅広い職員に周知することができた。また障害者雇用率を高める取り組みとして、業務切り分けシートを作成し業務を明確化し、各施設ごとに求人票を作成した。

上記取り組み以外に今年度の取り組みとして位置付けた計画において、取り組みが進まなかった主な計画については以下のとおりである。

- (1)法人全体の中期保全計画の策定については、現在の保全計画の未実施工事について整理したものの新たな計画の策定には至らなかったため、調査など一部業者へ委託したうえで次年度策定することとした。
- (2)既存の取り組みでは対応できない狭間のニーズを充足するため、居住支援の取り組みについては、各市への調査や具体的な協議を進めることができなかったことから、引き続きそのニーズ等を調査しながら必要な支援について検討を進める。

9. 地域における公益的な取り組みの推進

美原荘	引きこもりがちな高齢者に対し、社会参加の機会として、デイサービスセンターにて集いの場を提供することで、生活機能の維持に寄与しました。
春日丘荘	らじ丘たいそうを通して送迎範囲や送迎回数等の地域ニーズを把握し、送迎支援サービスを拡充しました。
四條畷荘	独居高齢者宅のごみ捨てや草抜きなど、地域の支え合い活動を行いました。
光明荘	子どもの居場所づくりと介護相談会を開催し、把握した貧困層の子ども達へキッチンカーによるおやつを提供を行いました。
高槻荘	認知症の方の中間就労機会として職場体験を実施しました。また、福祉体験学習会を地域の方に開催し、地域福祉の理解を促進しました。
白島荘	NPO法人、社会福祉協議会、小・中学校等と協働し、ヤングケアラーへの夕食弁当の配達を開始できました。
東大阪養護	府営上小坂住宅自治会と協力し独居の方や家族が遠方の方の「鍵預かり事業」を行い、計5名の方の鍵の預かりを行いました。
OSJ工房よりその丘	地域の高齢者、不登校児、障がい者・児の垣根を超えて参加できるワークショップを開催し、社会参加に繋げるきっかけづくりを行いました。
永寿園とよなか	豊中市の認知症サポーター養成講座の受け皿として機能し、出張講座を行い、幅広い方に参加していただき、地域の認知症理解を促進しました。
豊寿荘	原田介護予防センターにて、共働き家庭の支援を目的に計34日間子どもランチを開催し、多くの方に利用していただくとともに、地域ニーズの把握にもつなげました。
万寿荘	地域ケア会議や民生委員・児童委員からの意見とニーズを把握し、移動する手段がなく困っておられる方への買い物送迎サービスを実施しました。
河南荘	地域の地区福祉委員会と連携し、通学時の事故発生を防ぐため、事故が多い交差点の見守り活動や地域の清掃活動を実施し、高齢者の役割の創出にもつながりました。
みずほおほぞら	子ども食堂を実施すると共に、家庭環境やニーズを把握し、次年度からのひとり親家庭で朝食が食べられない子ども達に朝ご飯食堂を開催する準備をしました。
かがやき	地域と協力・連携し「高齢者の見守りローラー作戦」を実施し、軽度の認知症高齢者の早期発見、早期対応に努めました。

笑顔いきいき
365日

各施設事業執行状況 1

美原荘



事業施行概要

『困ったときの美原荘』であり続けるために、私たちが出来ることを積極的に地域において『困ったときの美原荘』であり続けるため、3つのアクション（1.生産性の向上、2.DX化・タスクシフティングの促進、3.ご利用者対応力の強化）を掲げて、質の高いサービスの提供、必要な人員の確保、複雑化した介護ニーズへの対応に取り組みました。



ステップアップ事業

リスキリング ～デジタル時代の人材戦略～

介護のICT・DX化等、介護を取り巻く環境の変化に適応するため、若手職員を中心にDX教育を行い、事業所内でその職員が中心となり、ICT・DX化等の業務改善を進めました。

達成内容

若手職員4名に対し、ICT・DX化や業務改善に必要な知識等のDX研修を行いました。そして、その職員が各拠点における毎月の業務改善会議の先頭に立ち、ICTの活用や業務改善を進めました。全拠点で、デジタル技術等を活用した業務改善を10以上実施することが出来ました。

グループウェア、ワークフローなどを活用し、職員のDXリテラシーを高め、紙媒体での情報共有・文書決裁からの脱却を図りました。

達成内容

従来の送りノートやメモ等の情報伝達にかかる紙媒体を廃止し、全職員がグループウェアを活用し、タイムリーに情報共有が出来るようになりました。また、会議録・報告書計16書類をワークフローに移行しペーパーレス化を進めました。

重点項目

「地域からの雇用」を重視した人材確保のための取り組みの推進

特養において、介護職員が介護に集中することが出来るように、清掃・消毒・シーツ交換・フロアの一部見守り・洗い物等の間接業務を介護業務から明確に切り離し、介護補助職員が主として担当できる体制を築きました。年間を通して、介護補助職員を1名から4名に増員し、介護補助職員への業務移行を進めることが出来ました。



在宅サービス事業等の強化のための取り組みの推進

デイサービスにおいて、「継続して近隣スーパーに行きたい」、「物忘れが多くなってきたので、予防に取り組みたい」、「これからも美味しくごはんが食べたい」などのご利用者の意向をもとに、在宅生活での『出来る』に着目した支援として、28名の方に身体機能・口腔機能・認知機能の維持を中心としたプログラムを通所介護計画書に反映し、サービスを提供しました。



地域 公益事業

街角フレイル予防事業 『美原ZAP（ミハザップ）』の実施

引きこもりがちな高齢者に対し、社会参加の機会として定期的に集いの場を提供しました。集いの場においては、体力測定、健康体操、レクリエーション、自宅で出来る脳トレ・筋力トレ講座などを実施し、生活機能の維持に取り組みました。年間を通して5回の集いを実施し、延べ65の方が参加されました。



その人が望む
暮らしの実現へ

各施設事業執行状況 2

春日丘荘



事業施行概要

「その人らしい暮らしを届けたい」

春日丘荘グループ（コミュニティソーシャルワーカー・地域包括支援センターから訪問介護、通所介護、小規模多機能センター、短期入所生活介護、特養）でご利用者の想いに寄り添いながら支援体制を繋げていく事により、地域包括ケアシステムの深化を図りました。

ステップアップ事業

新たな人材の発掘へ向けた取り組み

特定技能実習生の受け入れを行うとともに、研修体制の整備、その方に合わせた勤務時間の調整等を柔軟に行い、無資格・未経験職員の受け入れを推進しました。

達成内容

春日丘荘への興味を持っていただく取り組みとして、instagramなどのSNSを活用し、各事業所の魅力を発信することで、外国人労働者3名を含む、45名の雇用に繋げることができました。外国人労働者には、言語やコミュニケーションの課題を克服するため、申し送りや名札にはふり仮名をつけ読みやすくし、また日常会話を充実させることにより相談がしやすい体制を整えました。



職員一人ひとりの力を高めるための取り組みの推進

次世代リーダーを育成するために、目標を数値化した客観的視点を獲得する研修（一般職員にアメーバ研修）とフィードバックを行いました。また、先輩職員から後輩職員へのアドバイスをを行う事により視野の拡大が図れました。

効率性の高い業務体制の構築とDX化の推進

導入されたICT機器等を効果的に使用、多面的に検証し、彩の家ではシフト作成に関わる時間と労力を考えシフト自動作成ソフトを導入し、職員の負担軽減及び、業務効率化が図れました。また、KnowledgeSuiteを活用し連携を図ることで情報伝達における業務効率化とペーパーレス化につなげる事ができました。

多様化するリスクに対応できる体制の構築

全事業にてBCPへの理解を深めるための研修及びシミュレーションを実施するとともに、地域協力機関、他事業所との備蓄在庫の共有を行いました。訪問介護事業所から障がい者支援についての相談の声があり、近隣の障がい者施設と連携し合い、「障がい者の理解」の研修を実施し、理解を深めることができました。

質の高いサービス提供を実現するための取り組みの推進

入院者減少を図るため、医学的根拠に基づいた尿路感染症、誤嚥性肺炎等の予防対策を行い、令和4年度と比較し2件の入院者減少につながりました。ユニットケア実地研修施設へ見学を行い、学びを得ることで個別ケアの推進を図りました。



地域 公益事業

送迎支援等による閉じこもり対策の実現

春日丘荘主催のらじ丘たいそうを開催し、近隣住民の方々（平均50名）と顔の見える関係性を構築できました。参加者の意見を聞くなかで、要望が多かった送迎支援サービスを拡充しました。また、子どもランチでは、家庭内に問題抱えている子ども達の参加に繋げることができました。



たくさんの笑顔に
出会いたい

各施設事業執行状況

3

四條啜荘



事業施行概要

『その人らしさ』に着目した生活と地域力強化への一助

個別ケアを更に推進させるため、ご利用者一人ひとりの人生観、価値観、希望を確認し他職種と共有することで、ACPの充実を図りました。また、ユニットケア向上委員会において、「記録」「設え」「個別ケア」についてグループに分けてケアの見直しを行い、その人らしい生活となるよう起床時間の支援の在り方等、具体的な支援内容について一つひとつ見直しました。

さらに、地域住民が地域を支えるまちづくりの支援を四條啜荘が先導して行い、地域力強化の一助となることができました。

ステップアップ事業



続・ごっくんプロジェクトの推進

介護職員を中心に、嚥下の仕組みや食事時の姿勢、口腔ケアの必要性についての研修を複数回開催しました。また、歯科医師の協力を得ながら、多職種と共同でご利用者の嚥下機能の確認を行い、食事支援を個別に見直しました。

達成内容

介護職員が嚥下の仕組みをきちんと理解することで、食事時の姿勢や食事介助方法、食事形態を適切に見直すことができました。また歯科医師の協力により、胃ろうを造設されているご利用者で経口から食事摂取を希望される方について、少量ではありますが経口摂取を行うことができました。

『ごっくんマイスター』と称し、嚥下に関する知識を習得し、適切な食事支援を行える職員を育成するため、歯科医師と協働で、『ごっくんマイスター』となる基準を設定し、知識習得確認試験を行いました。

達成内容

歯科医師との連携強化、知識習得を確認するための試験を実施することにより、5名のごっくんマイスターを育成することができ、食事支援の向上に繋がりました。

重点項目



質の高いサービス提供を実現するための取り組みの推進

ご利用者の人生観や終末期の過ごし方等の聞き取り様式を見直すことで、具体的なニーズを確認することができました。聞き取りした内容はケアプラン会議で多職種と共有しACPの充実に結びました。

特養、養護、デイサービスにおいて認知症実践者研修の受講を進め、研修を修了した職員を中心に認知症ケアの事例検討を行うとともに、きめ細かいケアの充実に図りました。

また、デイサービスご利用者が利用時に内職的な就労活動を行い、役割や達成感を感じてもらえるよう、大阪府内の内職を含めた在宅ワーカーの就業を支援するため、在宅ワークに関する情報の収集・提供及び相談を行っている「おおさか在宅ワーク支援ナビ」への登録や、ご利用者の生活歴を把握し、継続して活動できる内容を精査し実施できる体制を整えました。



職員定着に向けた取り組みの推進

介護補助員の配置により、各ユニットの居室清掃などの間接業務を任せることができ、専門職員等のご利用者のケアに専念することができました。また、KnowledgeSuite等のグループウェアシステムを活用することで、職員が必要な情報をタイムリーに共有することができました。さらに在宅部門のリーダーを対象に在宅リーダー会議を開催し、職務を遂行するための課題分析や達成目標を各部門のリーダーが主体的に考えるよう育成を行いました。



介護ロボット・ICT機器等の活用

移乗用リフトの追加導入を行い、機能訓練指導員を中心に介護職員誰もがリフト操作を行えるようリフト使用の研修等を実施し、職員育成を行いました。また新たに移乗シートを導入し、介護職員や介護支援専門員などの他職種と連携を行い、2名のご利用者への使用に繋げる等、安全性の確保及び職員負担の軽減策として、今後のノーリフトケアに向けた選択肢として位置づける事ができました。

地域 公益事業



支え愛プロジェクト@なわそう

ボランティア&支え合い養成講座を複数回開催し、延べ60名が参加され、「なわそう支え愛チーム」としてボランティアや地域活動の参加登録を行っていただきました。養成講座受講者には、認知症講座や車いす講習会も開催し、独居高齢者宅のごみ捨てや草抜きなど、地域の支え合い活動に繋げることができました。

光明荘



事業施行概要

ACP（人生会議）を推進、「その人らしさ」に寄り添うケアを提供する

近隣住民に対して、ACPの考え方や取り組みについて、地域活動の中で発信する機会を設け、ACPの啓発活動に取り組みました。施設においても担当者会議の中に人生会議の考え方を導入することで、「その人らしさ」をより深く考えるきっかけとなり、パーソナリティの維持を目指したケアの実践に取り組みました。



重点項目

質の高いサービス提供を実現するための取り組みの推進

特別養護老人ホームの2グループにおいて、ノーリフトケアの推進を図るため、新たに2台のリフトを導入し、対象者の拡充と安全な移乗介助の実践に取り組み、職員の負担軽減と理解促進に繋がりました。

デイサービスにおいて、機能訓練の様子を定期的に動画撮影し、ビフォーアフター動画としてご利用者・ご家族・ケアマネージャーに見て頂くことで、日々のリハビリの達成度が共に実感できるよう取り組みました。また、その動画を営業ツールとして活用することで、デイサービス全体の魅力発信の一つとなり、利用率向上に繋げることができました。

効率性の高い業務体制の構築とDX化の推進

見守り支援機器の導入に向けて、デモンストレーションの実施と、すでに導入されている他法人への見学を行い、より効果的な導入とするため、小グループ化への再編成と人員配置の見直しを行うとともに、機器の選定と活用への検討を重ね、本格的な導入への足掛かりとしました。また、居宅介護支援事業所において、ケアプランデータ連携システムの導入を図り、ペーパーレス化の推進及び業務効率化や郵送費等の削減に繋がりました。

職員一人ひとりの力を高めるための取り組みの推進

ニッタイ株式会社と連携し、体組成計を使用した身体測定会を上半期と下半期に実施し、自身の身体バランスや筋肉量、脂肪量を可視化し、専門職が日常のトレーニングや生活についての指導の機会を設定するなど、健康管理への意識が高まるよう取り組みました。

ステップアップ事業



ACPの充実と拡大

市民フォーラムでは『人生会議』をテーマにグループワークのファシリテーターを担い、啓発活動を行いました。また、地域のサロンで出前講座を行い、もしもの時の備えとして実際に「覚書」を記載いただくなど、参加された方が自身の今後を考える機会としました。

達成内容 市民フォーラムや地域のサロンの開催で多くの方に参加いただき、人生会議の周知に繋げることが出来ました。

特別養護老人ホームでは、新規入所の方から順次人生会議を開催しました。その方の暮らしや過ごし方を深く考えるきっかけとなり、意向を反映したプラン作りとケアの実践に取り組みました。

達成内容 人生会議で得た情報をもとに、共通点を持ったご入居者同士が繋がることのできるよう働きかけたことで、日常生活の活性化に繋がりました。



地域 公益事業

コミュニティの活性化支援

地域の活性化と子育てがしやすい町づくりを目指し、近隣地域において、子どもの居場所づくりと介護相談会を開催しました。子どもの居場所として昔遊びやキッチンカーによるおやつ提供を行い、子どもと高齢者の関わりの場づくりに取り組みました。

継続的な子どもの居場所づくりを計画するにあたり、和泉市子どもの居場所交流会等へ参加し関係機関との交流を図りました。また、大学の教員とコンタクトを取り、参考となる学習支援事業を紹介いただくとともに、近隣施設と協働開催のもと、来年度の取り組みに向けた準備としました。



～笑顔とまごころを込めて～

豊かで潤いの
ある生活を

各施設事業執行状況 5

高槻荘



事業施行概要

たくさんの方に「豊かで潤いのある生活」を届けたい

桃園事業所の事務所移転、デイサービスセンターの大規模改修工事により、サービス内容の充実・拡充に取り組みました。”もっと知ってもらいたい”をテーマにSNSを活用し、施設内外を通して、理念の実践について積極的な情報発信に取り組みました。



ステップアップ事業

施設内インターンシップ制度の実施

『広げる×深める』をテーマに、高槻荘の多様な事業展開を活かして、施設内インターンシップ制度を創設し、グループ内事業の相互理解を深めるとともに、職員のキャリアデザインを広げました。また、効果及び結果を対外的に情報発信しました。

達成内容

計5名の参加があり、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所相互の業務理解、参加者のキャリア開発につなげることができました。SNSなどで情報発信し、求職者に訴求する取り組みになりました。



人を“育てたい”施設作り

TEAM事業と題した研究・発表事業に、中堅職員を主とした計37名が参加しました。役職者からのスーパーバイズ、主体的に考える自由な取り組みを通して、モチベーションの向上につなげることができました。全事協論文への投稿、高槻市介護保険事業者協議会での実践発表、高齢者福祉実践・研究大会での発表など積極的に発表の機会に参加しました。

腸内フローラアップチャレンジ

ご入居者の腸内フローラの改善を目的として、ご入居者全員を対象に、プロバイオティクス食品の導入、効果的な機能訓練、介護記録の活用など多職種協働で取り組む中、下剤服用回数の低減、正常便の排便率向上効果を確認することができました。



ご入居者・ご利用者が活躍できるケアの実践

『認知症ケア×役割＝自立支援のアップデート』をテーマに、特別養護老人ホームやグループホーム、小規模多機能センターのご入居者・ご利用者を対象に役割作りに取り組みました。取り組みの成果については、LIFEデータを利活用し、DBD13などの各評価指標について、対象者の約4割に改善効果がみられました。

介護機器・ICT機器のプラットフォーム施設を目指して

走行式リフトの全ユニット配備、見守り機器の増台など介護機器の積極導入に取り組みました。ホームページにポータルサイトを開設し、SNSで使用中の介護機器について活用方法・効果をまとめ情報発信しました。ノーリフトケアの実現に向けて、リフトリーダー養成研修を5名修了し、中心となって介護機器の使用方法について評価シートの作成・活用を通して標準化を実現しました。

地域 公益事業

高槻荘マッチング事業

コロナ禍により、高槻荘サポーターを中心としたボランティアの受け入れ等は実現しませんでした。福祉体験学習会の開催（計5回）、延べ40名近い参加があり、地域福祉の醸成に寄与することができました。

認知症の方の中間就労機会として1名職場体験がありましたが、雇用にはつながりませんでした。一方、受け入れの過程で認知症家族会から事業に賛同を得られるなど、今後につながる機会となりました。



「よりそう想い」
を大切に
たくさんの笑顔
を護りたい！

各施設事業執行状況

6

白島荘



事業施行概要

「私らしく」いられるところ～多様性が輝く場所

ノーリフティングケア、ICT機器の活用、看取りケアの充実により個別支援の強化を図るとともに、強度行動障がいの方の積極的な受け入れ、地区防災委員会・訓練への参加、ヤングケアラー及びそのご家族への支援など在宅サービスご利用者、地域住民など白島荘グループに関わりのある全ての人々をグループ全体で支援する取り組みを行いました。

ステップアップ事業

ノーリフティングケアの完成とICT機器の活用

「ノーリフティングケア宣言」において、「全ご入居者の移乗方法の見直し」と「ノーリフティングケアの啓発」を挙げ、介護職員・機能訓練指導員等が中心となって、個別の安心・安全な移乗方法を確立するとともに、リフト等の福祉機器の有効活用により職員の負担も軽減しました。ノーリフティングケアについては、その必要性を全職員が理解しました。

達成内容

吊り下げ式リフトを新たに8台導入し、委員会メンバーがリフトの使用方法的指導を行い、全員が使用できるようフォローアップを行うことで職員のスキルアップ、ノーリフティングケアの理解を深めるとともに、全ご入居者の移乗方法の見直しを行い、移乗方法や使用リフトをケアプランに記載、職員間での統一した移乗方法を確立し、新たに「ノーリフトケア宣言」を行いました。

眠りスキャンを活用し、全ご入居者の起床や入眠のタイミングなどの生活リズムのデータを分析した上で24Hシートに反映させ、根拠にもとづいた科学的介護の実践に取り組みました。また、データを活用することにより、職員の負担軽減にもつながりました。

達成内容

夜勤帯での眠りスキャンのデータを確認することにより、訪室頻度の減少や、リアルタイムでのご入居者の体調変化の把握ができました。また、多職種での「ICT委員会」にて全ご入居者の身体の状態に合わせたアラートを設定し、科学的根拠のあるデータをもとに24Hシートの見直しを行いケアの統一を図りました。取り組みの結果、大幅な睡眠状況の改善やご本人の望む日中の暮らしを実現できました。



わたらしいエンディングを迎える～看取りケアのさらなる充実を目指して

看取りケア委員会を立ち上げ、(1) ACP「わたしの心づもり手帳」(2) 看取りケアの経過について記した冊子「やすらかな最期の時へ」の作成(3) 看取り指針の見直しに取り組みました。全ご入居者、ご家族にACPを作成するとともに「やすらかな最期の時へ」を用いながら看取りの経過を説明することで、「白島荘で良かった」と満足いただける看取りを行うことができました。

多様化するリスクに対応できる体制の構築

転倒事故の再発防止を図るため、転倒リスクスコアシートの作成を行い、転落のリスクを可視化することにより、再発防止に努めました。感染症においては、感染症発生時の初動を誰もができるように5類感染症レベル別対応表を作成し、施設内のクラスター発生防止に役立てると共に、個人防護具の正しい着脱方法など感染症対策訓練を繰り返し行いました。防災においては、備蓄品、非常用物品の確認を行い、BCP机上訓練にて、事前に職員へ出勤状況のアンケートを実施し、想定される必要最低限の職員数でどのようなケアができるかの話し合いを行いました。

災害弱者及び障がい者への支援の拡充

光明の郷ケアセンターと地域包括支援センターで地区防災委員会へ出席し、災害時の取り組みや課題等を地域住民の方と協議しました。また、地域の防災訓練にも参加し、災害時の避難所運営や連絡体制について確認し、独居高齢者や障がい者等の支援の必要性を再確認しました。

質の高いサービス提供を実現するための取り組み

機能訓練指導員によるご利用者一人ひとりのADLの再評価を行い、科学的介護推進体制加算の算定を開始しました。また、職員会議にて見直された機能訓練計画の再評価の内容を全職員で共有し、歩行時、入浴時のケアを見直しました。さらに集団リハビリテーションでは、動画を活用しADLの維持・向上に努めました。

地域 公益事業

住み慣れた地域でいつまでも暮らす

ヤングケアラーのニーズの洗い出しを行うため「NPO法人ふうせんの会」、「箕面市社会福祉協議会」、「地域の小・中学校」などの協力をいただき、特別養護老人ホーム白島荘・光明の郷職員の多職種連携にてヤングケアラー2世帯7食の夕食弁当の配達を開始しました。ヤングケアラー自身の負担軽減はもとより、ご家族全員に栄養バランスのとれた食事の提供ができました。また、訪問時に繰り返しお声がけをすることにより関係性を築くことができ、次年度の取り組み「教育、休む、遊ぶ、健康」に繋がる足掛かりとすることができました。



チーム
「KYOHSEI」
始動！！

各施設事業執行状況 7

東大阪養護老人ホーム

事業施行概要

ご入居者の自立を促し、他のご入居者の日常生活を支援することができるようにサポートします。

高い自立度を活かし、介護予防・日常生活支援総合事業サービス従事者養成研修を受講されたことで、高齢者介護への理解や意欲の向上にも繋がり、ご入居者同士の支援のみに留まらず、地域を支える、そして地域と共生する「介援隊」へと成長しました。

ステップアップ事業

ご入居者が主体的に他者に対し支援ができるようになる

東大阪市介護予防事業の通所型つどいサービスを運営し、市推奨の「らくらくトライ体操」の普及に努めました。

達成内容

ご入居者も参画して、ニーズに沿ったサービスの運営を行ったことで、登録者も増え、利用定員を当初の10名から15名へと増員しました。これにより、「らくらくトライ体操」の普及と地域高齢者を支える仕組みづくりを推進することができました。



養成研修を修了したご入居者を中心に「介援隊」を結成し、他のご入居者や地域での活動に携わりました。

達成内容

ホーム内では他のご入居者の同行や移動支援を行いました。地域では清掃活動や通学時の子ども見守り隊、青色防犯パトロールに参加することで、地域に貢献することができました。



職員の働きがいを高め、成長を実感することができる取り組みの推進

前年度に実践した「看取りケア」を集約した事例検証は、実践論文という形で対外的にも評価を得ることができました。また、その経験とデータ分析を基に、職員が安心して「看取りケア」に取り組むことができるように、ケアの指針やケアマニュアルの作成及び研修等を実施し、ホームの「看取りケア」体制を整備しました。

地域における公的な取り組みのより一層の推進

一昨年から開始した「鍵預かり事業」の利用人数は、開始当初は1名で推移していましたが、今年度はさらに周知を行い、4名の方が新たにご利用され、合計5名と大きく前進することができ、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりに貢献できました。

地域公益事業 ご利用の案内
鍵預かりサービス事業

対象者は、以下のすべてに該当する方です
 ①希望住宅在住の、ひとり暮らしの方
 ②親族が遠方にお住まい等で、緊急時にすぐに駆け付けられない、または身寄りがない
 ③定期的な見守りサービスを利用していない

利用料
無料
 利用者様の費用負担はありません

申込みの相談 → 地域包括支援センター上小阪 → 契約を依頼 → 東大阪費満老人ホーム → 契約・かざ預かり → 開設・安全の確認 → ご利用者様

一緒に
 警察 自治会・老人会役員・民生委員

お気軽にご相談ください
 東大阪費満老人ホーム ☎ 06-6726-3031
 地域包括支援センター上小阪 ☎ 06-6726-3040

地域公益事業

地域における困りごとに対しての施設資源の活用

ここや(ながせのながや)にて、地域住民を対象とした認知症サポーター養成講座や介護相談を目的としたオレンジカフェや機能訓練指導員による介護予防体操を毎月2回開催しました。各プログラムにおいて年間で50名を超えるご利用がありました。また、骨密度測定を年2回実施する等、地域の健康寿命の増進にも尽力しました。



OSJ工房よりそいの丘

事業施行概要

令和5年6月より、組織改編を行い、OSJ工房よりそいの丘として事業をスタートしました。よりそいの丘プロジェクトを進めるとともに、令和6年度より開始する、生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービスの準備を進めることができました。

重点項目



他法人や企業との連携・協働による新たな取り組みの推進

よりそいの丘プロジェクト推進室では、地元企業とのコラボで、よりそいの丘で「のびねこパン」を作成しました。また、企業や大学が協力して、地域住民のみなさんと、新しMONOZUKURI CITY 東大阪をつくるための東大阪市主催のイベント「こーばいこう！」へ出展し、よりそいの丘の魅力を発信しました。

就労継続支援では、支援学校から実習生3名の受け入れを行いました。また、支援学校高等部に伺い、進路を控えた生徒によりそいの丘で取り組んでいる作業の体験を行って貰うことで、新規利用につながりました。さらに、支援学校との連携・強化を図ることができました。



重点項目

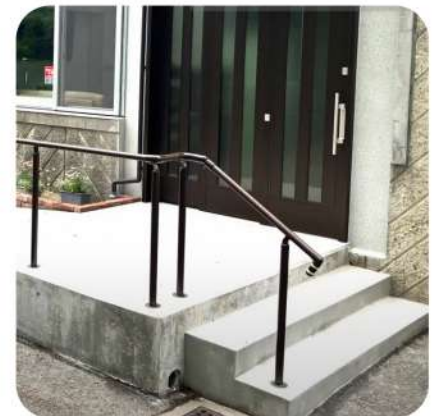
働きやすい環境作りに向けた取り組みの推進

地域で長く事業の継続ができるよう建物・設備の修繕を行いました。相乗効果として、カフェやお祭りを通じて、地域住民の方に多く利用して頂くことができました。



生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービス開始に向けた施設整備

令和6年度より開始する新規事業に向けて、施設整備を進めることができました。



地域 公益事業

地域における公益的な取り組みのより一層の推進

地域で活動している法人や団体と連携し、6月・9月・12月・3月に年4回イベントを実施しました。地域の子どもから高齢者、不登校児、障がい者・児の垣根を超えて、ワークショップ等の開催、多種・多様な価値観を共有し、孤立や孤独を防ぎ、社会参加に繋げるきっかけとなるよう取り組みました。



その人らしく、
ここで...

各施設事業執行状況

9

永寿園とよなか



事業施行概要

地域と共に“わたしらしく生きる”

地域活動に関心のあるご入居者が定期的に小学校通学路の交通安全の見守りを実施出来るよう付き添い、地域活動を支援しました。また、地域の方へみずほおおぞらのパンを販売する際に仕入れや設営、お客様の呼び込み、計算、商品受け渡しなどご入居者主体で運営出来るようアプローチしました。また、地域交流スペースにて福祉委員会主催の「ぐんぐん元気塾」を定期開催するとともに、地域の会合や子ども会のイベントに利用していただくなど、施設機能を地域の社会資源として活用しました。さらに、地域公開講座について、高齢者向け講座だけでなく育児を行う保護者向け講座を実施し、世代間交流を図りました。施設に隣接する畑「もえふあーむ」にて地域の方から助言をいただきながら野菜を栽培し、園児やご入居者が共に収穫した野菜をご入居者が調理し、園児も食べて食育に繋げるなど、ご入居者のやりがい向上や園児との交流に役立てました。

ステップアップ事業

子育て支援の強化と永寿園モデルの確立

専業主婦や取り残された方でも一時的な保育をスムーズに利用できる体制を構築しました。

達成内容

月極利用の園児とは別に、1日2名の一時預かり保育の受け入れをスタートしました。利用登録から利用までのタイムラグを5日にすることで、スピード感のある対応が可能になりました。一時保育利用のなかで、育児に悩んでいる保護者からの育児相談に応じ、市の関係機関と連携を図り、問題解決に努めました。

感染対策を講じながら地域住民や関係機関とタイアップしたイベントを開催します。

達成内容

月に一度の園庭開放、消防職員による乳幼児救命救急講座、近隣小学校とのイベントなどを開催しました。地域の方々と交流することで、永寿園は高齢者の施設だけではなく、保育園があるという認知度がアップしました。また、豊中市主催の「いきてゆくフェス」に実行委員会として参加し、養護のご入居者も当日のイベントに参加しました。東泉丘フェスでは地域の子ども向けブースを出店し大盛況でした。



質の高いサービス提供を実践するための取り組みの推進

OJTにて職員の介護技術の向上を目指し、研修に取り組みました。同建物内の特養への体験実習、介護体験人形を用いた介護技術の確認をしました。今年度の評価は各項目を点数化するで、「課題の見える化」ができました。また、常勤の作業療法士の配置により機能訓練の強化を行い、デュアルタスクを取り入れた認知症・フレイル予防メニューを実施し、体力測定で一定の効果が見られました。さらに、訓練に積極的に参加された方の転倒リスクが下がったことが確認できました。



効率性の高い業務体制の構築とDX化の推進

眠りスキンの導入を行い、睡眠状態の観察から日中活動の在り方を検討し、24時間シートの見直しができました。また、職員が見守り出来ない時間を、ICTを活用し観察が行えた事で感覚や経験則で行っていたケアから、より根拠に基づくケアになり業務の見直しにもつなげられました。



外国介護人材の雇用推進のための取り組みの推進

外国人留学生の育成フローを設け、介護補助職員から介護職員になるまでの育成・指導體制を整備し、誰もが外国人留学生を育成できる体制を構築しました。



地域 公益事業

自分たちで創る～暮らしやすい地域づくり～

地域住民の方と共に防災訓練を実施し、有事に備え消防署から貸与された防災対策物品の使用方法などについて実演やディスカッションを行いました。また、地域公開講座では多世代が集える企画を実施しました。認知症サポーター養成講座は施設での定期開催以外にも出張講座の依頼を受け実施しました。

地域とともに！

各施設事業執行状況

10

豊寿荘



事業施行概要

頑固なほどのポジティブ思考で関わる全ての人を豊かに

インカム、見守り支援機器等の積極的な活用を行い、業務の質向上と効率化に取り組みました。また、地域のコミュニティへ職員が伺い、体操講座の講師等、地域の介護予防に資する取り組みを実践しました。さらに、並行して子どもランチに着手し、子どもへの食事支援に加え、多世代交流、高齢者の社会参加の拠点を確立することができました。



ステップアップ事業

フットケアで転倒予防、健康寿命の延伸

フットケア処置実績、処置人数108名、延べ件数124件を実施しました。その他に医師、看護職員、介護職員の連携強化を目的として、月1回ケアハウスにてミニカンファレンスを実施し、チームケアの向上に取り組みました。

達成内容 転倒による骨折を前年比で28%減少させることが出来ました。

根拠に基づいた自立支援の実践

排泄支援機器を用い、排泄パターンのデータ収集に取り組みました。その結果、個人ごとの排泄パターンを把握し、そのデータを24時間シートに反映し、個別支援につなげました。

達成内容 データを元に支援内容、タイミング等を設定することができるようになったことで、支援方法を決定するための標準化が行えました。

見守り支援機器を活用し、看取り期のステージごとの情報を収集して、看取り期の支援について見直しを行いました。

達成内容 ご利用者の状態が可視化されることで、経験による判断ではなく、経験の浅い職員でも根拠をもって対応できる体制づくりを行いました。このことにより職員の心理的負担軽減にもつながりました。

重点項目

地域の課題解決力を高めるための取り組み

健康大学OBに対して、介護予防センターが主催する地域に向けた活動への参加を推奨し協力を得ることができました。地域小学校への講座講師や地域清掃等、介護予防センター外の活動にも参加していただくことが出来ました。

職員一人ひとりの力を高めるための取り組みの推進

職種・部署間の相互理解を深めるため、また、他職種に関する認識を図るため、アンケートを実施しました。その結果から相互理解のために業務内容等の勉強会を実施しました。

働きやすい職場環境づくりに向けた取り組みの推進

インカム、見守り支援機器を活用して、業務の省力化に取り組みました。また、外国人留学生を中心に間接業務の担い手となっていただきました。さらに、入職後一定期間を経過した留学生については、介護職員としての必要な研修等を経て、介護職員として就労していただくことができ、今後の留学生にとってのモデルを確立できました。



地域 公益事業

地域サポーター ゆたか

ご自宅へ伺っての支援はマッチングが出来ませんでした。ニーズの再発掘に努め、地域住民が運動する場で講師のニーズに対して年間で延べ38件の講師を行うことが出来ました。



期間限定 子どもランチ

原田介護予防センターにて、夏休み、冬休み、春休みの計34日間開催し、延べ1504名の方に利用していただきました。また、担い手として健康大学OBを中心に143名に参加していただき、大学卒業後の社会活動の場としても確立することが出来ました。担い手への参加を通じ、就労される方もおり、子どもと元気高齢者の双方にとってのメリットとなる取り組みが出来ました。



「住み慣れた
地域と共に
生きる」

各施設事業執行状況 11

万寿荘



事業施行概要

生活環境の改善と自立支援強化を目指します

職員が介入し、生活が送しやすい居室環境整備により、未然に事故を防止することができました。また、長く万寿荘で生活して頂くため、定期的な居室訪問により把握したご入居者の変化を職員間で報告・連絡・相談し、ご入居者と職員で話し合い万寿荘での生活継続に必要な外部サービスへ繋ぐ事ができました。

ステップアップ事業

アクティブシニア健康体操教室の充実

今年度は近隣の外部のリハビリ講師による、万寿荘ご入居者の身体評価とトレーニングを行い、筋力強化にも挑戦し、「もっとトレーニングがしたい」と意欲の向上に繋がりました。

達成内容

老健かがやきの専門職によるAIでの歩行テストを実施し、参加者全員が20点満点中17点以上でした。池田市のリハビリ特化型デイサービス「ゆい」より講師を招き、下肢に特化した体操教室を行っていただきました。

重点項目

自立支援体制の強化

ご入居者が主体となって、バス旅行や初詣の行き先について会議を開催し意見交換をしながら決定しました。また、地域清掃に関してもたくさんのご入居者が主体性をもって行うことができました。

大規模改修工事基本構想 に向けた取り組み

住み慣れた場所で、より快適で健康的に生活できるよう、新規事業を見据えた計画、今後のビジョンについて、ご入居者へ説明会を開催しました。

新規事業の取り組み

万寿荘大規模改修工事と併せて行う新規事業の計画案から、先駆けて令和6年4月1日より万寿荘訪問介護事業所「れん」の立ち上げ準備を行いました。



地域 公益事業

買い物で広がる支え合いと笑顔の輪

地域ケア会議にて、買い物送迎の実施報告を行ったところ、民生委員・児童委員より、サロンへの送迎依頼がありました。地域によっては移動する手段がなく、困っておられる方にサービス内容を知っていただくことができました。さらにリピート利用される方もおり、今後更なる発展を目指します。

いつまでも
自分らしく
いきいきと

各施設事業執行状況 12

河南荘



事業施行概要

地域のセーフティネットとしての役割を果たす

定着支援センターと連携し、地域の一人暮らしの生活困窮者や、社会的支援が必要な方を積極的に受け入れました。地域包括支援センター等への定期的な営業活動を通じて、介護度が低い方や低所得者の受け入れ先として、軽費老人ホームA型の役割を積極的に伝えました。今後はさらにWebを活用した広報活動に力を入れていきます。

ステップアップ事業

就労支援を通して、生きがい（やりがい）を高める

リーダー的役割のご入居者を中心に、ご入居者自らが作業工程の把握と、一部納期管理に積極的に関わって頂く事で、工賃収入の満足感だけでなく、ご入居者自身の生きがい（やりがい）を高める事が出来ました。

達成内容

施設内での内職（ネジ梱包）については、1年を通じて延べ850名以上の方に参加してもらう事が出来ました。

重点項目

他法人や企業との連携・協働による新たな取り組みの推進

前年度試験的に実施を開始した大阪府障害者福祉事業団の「こんごう福祉センター」での芝刈り等の軽作業に対して、収入を得られる作業として、計4回、延べ8名の方が参加され、ご入居者のやりがいに繋げる事が出来ました。



地域 公益事業

河南荘の存在価値を地域へ

地域包括支援センター等と連携し、地域の通所型サービスへの移動支援として訪問型サービスD事業を開始し、週1回の送迎支援を行いました。また、受診のための移動支援が必要な地域高齢者を対象とした福祉有償運送や無償送迎も実施し、地域の路線バスの本数減少に伴う移動支援ニーズの高まりに貢献する事が出来ました。さらに、地域の地区福祉委員会と連携し、中学生の見守り活動（年2回）と、地域の公園の清掃活動（年2回）を実施しました。

この街で
「暮らす」「働く」
を応援します

各施設事業執行状況 13 みずほおおぞら



事業施行概要

地域生活支援拠点として機能強化と先導的役割の追求

グループホーム、短期入所等の連絡会に参加し、他法人のグループホーム等に対して、みずほおおぞらが主体となり研修を実施し、地域の支援力向上のための働きかけを行いました。また、緊急での短期入所を4件受け入れました。さらに、短期入所連絡会では緊急での短期入所の受入れを他事業所でも対応してもらうよう、要請を行いました。今後も柔軟に対応できる事業所を増やし緊急時に行き場のないご利用者の受け皿が広がるよう働きかけを行います。

ステップアップ事業



地域移行と定着に向けてひとり暮らし体験の実体験支援

「つながりルーム」を地域移行の社会資源として積極的に活用し、相談支援事業所やグループホーム等の障害福祉サービスと連携して、地域移行と定着を推進しました。

達成内容

つながりルームを使用し、入所サービスご利用者の一人暮らし体験を実施し評価を行いました。入所サービスのご利用者の地域移行について、ぴすとを始め他事業所の相談支援事業所と連携し、今年度4名のご利用者が地域移行することができました（うち1人暮らし体験実施1名）。

職員のインクルーシブ教育を進め、多様な障がい特性に対応できる技術の向上を図りました。

達成内容

特養での清掃業務を行っているご利用者が綺麗に清掃できるよう手順等のマニュアルを作成しました。清掃後は特養スタッフにチェックリストに基づく確認を依頼し、ご利用者の仕事の質の向上に繋がりました。また、みずほおおぞら・みのり生活介護、就労継続支援A型・B型と連携し、障がい特性に合わせた支援方法（構造化）を提供することによって、1名のご利用者が就労継続支援B型から就労継続支援A型にステップアップされました。

職員一人ひとりの力を高めるための取り組みの推進

年間計画に沿ってみずほおおぞら・みのり生活支援員計12名が他施設の支援技術等を学ぶ実地研修に参加しました。うち大阪府5件、京都府1件、群馬県1件の計7事業所とつながることができました。実践報告を通して、全部署と共有し、学んできた支援方法を日々個別的な支援に取り入れています。また、スマートフォンを合計11台導入し、ご利用者の学習や意思決定支援のツールとして活用しました。

科学的根拠に基づいた介護の推進とケアの標準化

LIFEを利活用し、多職種が連携しADL向上に向けた取り組みを実施しました。ADL値が全国平均27.4に比べ、みずほおおぞらは30.7と高い水準が確認できました。現在は各ご利用者の数値を確認し、個別支援の強化を図っています。

災害パン開発に向けての取り組み

災害パンの製造に向けての研究を行い、商品については検査機関に提出し2年間の賞味期限を定められる事が確認できました。現在、3年間の賞味期限を定められるかの確認中です。また、パッケージのデザインも生活介護のご利用者と一緒に考えており、商品化に向けて取り組みを進めています。



地域 公益事業

SDGsの取り組みを通じた、アウトリーチへの取り組み

マチグルミ号、小学校の休み期間に実施した子ども食堂を通して、ご家族、小さなお子さんから高齢の方までの困りごとの相談につながり、地域における「交流拠点と相談の場」としての役割を担いました。また、近隣の小学校を通じて、朝ごはんを食べられずに登校する子どもが増えているという課題があることがわかり、次年度には小学校の家庭科室を借りて、朝ご飯食堂を開催する準備を整えています。令和5年度に集約した地域ニーズに合わせ、次年度より公益的な事業をさらに展開させていきます。

各施設事業執行状況 14

かがやき



事業施行概要

老健の機能を活かし“かがやきリピーター”を増やします

令和5年度は特に在宅復帰カンファレンス及び在宅復帰前のご自宅訪問に力を入れて取り組みました。また、ショートステイにおいて、ケアマネージャーからの要望が多い医療的処置や栄養改善等への対応などが実施できるよう、体制やサービス内容を見直し、さらなる充実を図りました。その他にも、通所リハビリにおいては、リハビリに特化した短時間サービスのプログラム内容の評価と見直しを繰り返しながら、リハビリ成果が出せる事業所づくりを進めました。そして、令和5年8月には訪問リハビリテーション事業を新たに開始し、老健入所から退所後の支援まで幅広く対応できる体制を構築し、これによりさらに“かがやきリピーター”を増やすことができました。



ステップアップ事業

在宅復帰支援、自立支援の強化

リハビリ特化型短時間サービスの事業については、ご利用者が主体的にリハビリに取り組める仕掛けとして徹底した「成果の見える化」を行いました。これにより通所リハビリテーション事業の利用率も安定し、ご利用者からも「かがやきでリハビリをして元気になった」と喜んでもらうことができました。

達成内容

通所リハビリにおいて、ご利用者が個別目標の達成に向けて主体的にリハビリに取り組めるよう最新のリハビリ機器を使ったリハビリプログラムを提供しました。また、AIの歩行分析や体組成計を使った機能測定に加え、ご利用者自身の目標シートやリハビリの実績を綴った「マイポートフォリオ」を作成し、ご利用者の自主的な活動への動機付けを図ることができました。

老健ご利用者の在宅復帰後の支援体制を構築するべく、令和5年8月に訪問リハビリテーション事業の運営を開始しました。退所前にはご自宅を訪問して生活環境等のアセスメントを行い、老健の専門職と連携を図りながら安心して在宅復帰し、住み慣れたご自宅で生活が継続できるよう支援しました。

達成内容

訪問リハビリテーション事業を立ち上げ、ご利用者の在宅生活における幅広いニーズに応えることができました。年度末には登録者数19名となりました。

買い物送迎と若者の学習支援

地域からの強いご要望に応え買い物送迎をご自宅までの送迎としました。また、無料送迎バスが増便できるよう社協と連携し、施設近隣の他法人に参画してもらう働きかけを行いました。買い物送迎で地域からのお声が多かった「ご自宅までの送迎」を実現したことで、送迎1回あたりの平均利用実績が1名であったところが3.2名となり、ご利用者を増やすことができました。

職員の働きがいを高め、成長を実感できる取り組みの推進

職種、部署の垣根を越えて「TEAMかがやき」PTを立ち上げました。その中で、老健協会での事例発表や法人のOSJぷらざでの実践発表に積極的に応募し、かがやきにおける取り組み成果を外部に発信することにより職員の働きがいを高めることができました。

質の高いサービス提供を実現するための取り組みの推進

ご利用者の嚥下機能や栄養状態等の維持・改善に向けたアプローチとして、言語聴覚士と管理栄養士によるミールラウンドを平日は毎日実施しました。また、在宅復帰に際して食事面に関して不安を抱えておられるご家族への助言等を行ったことで、ご利用者からは喜びの声をいただくことができました。療養4階フロアにて認知症ケアの取り組みの一環として、集団体操の取り組みを平日に毎日1時間実施しました。取り組みを休むことなく継続したことで、ご利用者の生活にメリハリが付き、BPSDの緩和、身体機能の維持、向上にもつながりました。

効率性の高い業務体制の構築とDX化の推進

居宅介護支援事業所における、訪問時のアセスメントや評価について、タブレットの活用を進め業務の効率化を図ることができました。療養フロアにおいて、インカムの活用をさらに充実させ介護職員、看護職員全員がインカムを装着することで、職員間のコミュニケーションがさらに充実し、ご利用者の安全確保につなげることができました。ショートステイでは「荷物確認アプリ」を導入しご利用者の忘れ物等のエラー防止につなげることができました。



地域
公益事業

地域の認知症高齢者の課題への取り組みの推進

認知症地域支援推進員を中心に地域の高齢者の認知症予防や地域で実施している「高齢者の見守りローラー作戦」を活用して軽度の認知症高齢者の早期発見、早期対応に努めました。

新たな
介護人材の
発掘を目指す

各施設事業執行状況 15

OSJ 人材育成センター

事業施行概要

将来にわたる介護人材育成プログラム実現に向けて

日本語アカデミー～ケアスクールへと渡る人材育成プログラム体系を完成すべく一貫した受け入れ態勢を完成させることができました。また、介護福祉士試験には6名全員が合格することができ、卒業後は全員が大阪府社会福祉事業団の正規職員並びに非常勤職員となり、さらなるステップアップを図ることができました。



特定技能登録支援機関機能拡充

登録支援機関として受け入れ手順の充実を図りました。

達成内容

他法人への斡旋と契約を実施し6件の契約につながりました。



介護福祉士養成施設における専修学校化への申請

介護福祉士養成施設における専修学校化への準備を行いました。

達成内容

令和6年4月専修学校としての新規開校を目指し、5年度中の申請を行い、認可されました。



外国介護人材の雇用促進のための取り組みの推進

外国人労働者との共生にむけ日本語アカデミーの留学生が介護現場に溶け込めるよう就労支援や日常生活のサポートを実施しました。



「地域からの雇用」を重視した人材確保のための取り組みの推進

介護福祉士養成校として地域向け就労開発プログラムを行政と協同で開催するほか、国家試験に対する受験対策の開催案内を事業所に向け行いました。



事務局



事業施行概要

人材の定着・育成と戦略的な業務推進策の実施

人材の定着のため、健康経営優良法人の認定を取得するとともに、ラダー教育システムのプレ導入を行い、次年度より本格的に運用するための準備を行いました。さらに、より一層のサービスの質の向上を図るため、全施設でWi-Fi環境の整備を行い、新たなICT機器の導入を進めました。

重点項目

健康経営優良法人の認定取得

健康経営優良法人認定マークの取得について、法人の健康課題分析と数値目標を含めた改善計画を策定し、計画に基づき取り組みを実施しました。その結果、認定を受けるために必要な認定審査項目を全てクリアし、認定を受けることができました。

ICT化の推進による業務効率化の促進

ICT機器を導入する目的や推進体制、行動基準を統一するため、DX化基本方針を策定するとともに、ICT機器導入前の準備と導入後の利活用・評価を実施するための「振り返りシート」と「介護機器導入過程整理シート」の作成を行い、ICT化の推進を図りました。

次期報酬改定を見据えた、LIFEフィードバック情報等の活用強化

報酬改定に備えた勉強会を事業ごとに開催し、習得可能な加算や報酬改定を見据えた更なるサービスの質の向上のための意見交換を行いました。またLIFEの利活用PTにより、フィードバックデータの活用方法及びBIにおける評価視点の統一を行い、全事業所に発信することができました。

働きやすい環境づくりに向けた取り組みの推進

法人内で職員が副業として応援勤務ができる制度を積極的に活用し、施設の事情に合わせて介護職員等の不足する人材を募集することができました。各募集に対しては複数の応募があり、不足している介護職員を法人内職員で一定数補うことができました。ストレスチェックの結果を踏まえた職場環境等の改善に向けた取り組みとして、施設の状況に応じてメンタルヘルスに関する専門家による施設の定期訪問を実施しました。

経理事務職員の人材育成

社会福祉法人会計未経験でも理解しやすいように、他業態からの経理経験者や前年度新規採用職員の意見を取り入れ、具体的な経理処理内容に合わせたマニュアルを作成しました。



より活用しやすい人材育成プログラムの構築



教育担当者が共通した根拠で指導できるスキルブック指導ポイントを作成・活用しました。外国人介護人材の介護福祉士取得計画に基づき研修を推進しました。

ラダー教育システムの検討

正規一般介護職員のうちレベルIII達成を目指す職員1施設3名を対象にプレ導入を行い、運用後の評価者・被評価者アンケートの結果を踏まえ本格導入に向け課題を分析し、運用に向けての仕組みを整備しました。



働きやすい環境作りに向けた取り組みの推進



法人全施設、全職員にグループウェアシステムを導入し、情報共有及び、業務効率化を図ることができました。また、全施設同一水準のWi-Fi環境の整備を行い、ICT機器やインカム等の積極的導入を図り、業務改善・業務効率化を進めることができました。

令和5年度事業報告書

研修実施内容

1. 研修実施内容

研修区分	研修名	実施年月日	参加者	内容		
研修センター主催	職階別研修	採用前集合研修	R6.3.4~R6.3.14 (内9日間)	46名	・法人理念・人権・接遇・緊急時対応・感染症について・認知症ケア・障がいの理解・基本介護技術 等	
		採用前・採用時基礎研修	R5.4~R6.3 (内2日間、施設状況に応じて随時)	延べ107名	・法人理念・人権・接遇・緊急時対応・感染症について・認知症ケア・障がいの理解・基本介護技術 等	
		苦情対応研修	R5.11.7	27名	・苦情発生のメカニズム・苦情対応の原則・苦情に至らないための取り組み	
		リスクマネジメント研修	R5.11.7	22名	・介護事故等リスクの回避と対応	
		OJT研修	R5.11.8	16名	・OJTの理解と実践	
		メンタルヘルス (セルフケア) 研修	R5.11.13	22名	・メンタルヘルス不全の予防と職場のメンタルヘルス向上	
		アンガーマネジメント研修	R6.1.31	17名	・感情のコントロールについて理解する	
		ティーチング・コーチング	R6.1.31	18名	・ティーチング・コーチングとは ・現場での指導方法について	
		外国人介護人材受入 支援事業研修	①R5.8.8 ②R5.9.12	14名	・外国人人材受入事例紹介 ・介護の日本語に関する教授法 ・コミュニケーション技術に関する教授法	
		フォローアップ研修	R5.4~R6.3 (施設状況に応じて随時)	延べ65名	・施設指導職と目標を共有し、指導・フォローを行う	
	主任または現場指導職員向け	主任昇任者研修	R5.5.11	10名	・主任の役割 ・必要とされる管理業務	
		第1期人事考課者研修	R5.8.2	9名	・考課する視点の確認 ・中間面接 等	
		第2期人事考課者研修	R5.12.8	8名	・フィードバックのアプローチ方法 等	
		OJT研修(実践)	①R6.2.20 ②R6.3.14	10名	・OJTの実践と演習 ※2回連続講座	
	を科長指すまたは職員向け	メンタルヘルスケア (ラインケア) 研修	R5.11.24	31名	・組織としてのメンタルヘルスの取り組み	
		リーダー養成研修	R5.8.9~R6.3.1	7名	・次代の管理者に必要なマネジメント等について	
	管理指導職	財務管理研修	R5.11.21	47名	・会計管理の基礎、税務の基礎 ・予算、決算書等の詳細な見方、適正な運営及び事業所ごとに見るポイントについて ・数字を読み解くポイント (アミーバ会議で収益性、安定性を見る視点)	
	受験対策セミナー	受験予定者	介護支援専門員 受験対策セミナー	WEB (R5.8.3~R5.10.8)	24名	・介護支援専門員実務研修受講試験対策
			介護福祉士 受験対策セミナー	R5.10.26~R5.1.11 (内6日間)	集合2名 オンライン6名	・介護福祉士資格試験の対策
			介護福祉士 受験直前対策セミナー	R6.1.18、R6.1.25 (2日間)	5名	・介護福祉士資格試験の直前対策

2. 外部派遣研修実施内容

研修名	実施年月日	参加者	内容
認知症介護実践研修 (実践者研修)	WEBと対面型の混合型 R5.5～R5.7	2名	【講義・演習】 ・認知症介護技術の向上を図り、認知症介護の専門員を養成

3. 外部研修実施内容

研修区分	研修名	実施年月日	参加者	内容	
大阪府指定	介護職員初任者研修	R5.4.3～R6.2.24	40名	【講義・演習】 ・介護員としての相当の知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにする	
	介護福祉士実務者研修	R5.4.7～R6.2.27	18名	【講義・演習】 ・介護福祉士習得を目指し、医療的ケアも含めた、介護技術を習得し、実践できる人材の養成	
	大阪府相談支援従事者研修 (2日課程・7日課程・現任)	R5.10.19～R5.10.26(2日) R5.9.19～R5.12.25(7日) R6.1.5～R6.3.8(現任)	586名(2日) 133名(7日) 184名(現任)	【講義・演習】(7日課程・現任研修) ・障がい福祉サービスの相談支援事業所における相談支援専門員の養成 【講義】(2日課程) ・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の養成	
	大阪府サービス管理責任者等 基礎研修	R5.8.10～R5.9.29(基礎) R5.6.23～R4.10.27(実践)	584名(基礎) 418名(実践)	【講義・演習】 ・障がい福祉サービスにおけるサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の養成	
大阪府登録	喀痰吸引等研修(第二号研修)	R5.4.1～R6.3.31	3名(基本) 5名(実地)	【講義・演習】 ・施設で喀痰吸引等が必要な利用者に対して、知識を深め、技術を習得し実践できる人材の養成	
	喀痰吸引等研修(第三号研修)	R5.4.1～R6.3.31	2名(基本) 2名(実地)	【講義・演習】 ・在宅や障がい者支援施設で喀痰吸引等が必要な利用者に対し、知識を深め、技術を習得し実践できる人材の養成	
大阪府受託	福祉サービス第三者評価 調査者養成研修	R5.8.21～R5.11.29	34名	【講義・施設実習】 ・大阪府において第三者評価調査者として活動する意思のある者に対し知識を深め、実際に施設へ伺い本書を想定した施設実習を行う研修。	
	福祉サービス第三者評価 調査者継続研修	R6.2.20～R6.2.29	18名	【講義・演習】 ・[基礎編]コロナウイルスの影響により、講義動画を視聴する研修に変更。 ・[スキルアップ編]集合研修でグループディスカッションを行う研修。	
堺市受託	認知症介護実践研修	堺市認知症介護実践者研修	WEBと対面型の混合型 ①R5.5.23～R5.7.31 ②R5.8.16～R6.10.26	87名	【講義・演習】 ・認知症介護技術の向上を図り、認知症介護の専門員を養成
		堺市認知症実践リーダー研修	集合研修 R5.11.20～R6.2.19	16名	【講義・演習】 ・実践リーダーとしてマネージャートレーナー、としての知識、技量の向上を目指す。
	堺市認知症対応型サービス事業開設者・ 管理者研修	WEB研修 R6.2.9～R6.2.26	24名	【講義・演習】 ・堺市認知症対応型サービス事業開設者・管理者の養成	
	堺市小規模多機能型サービス等計画作成 担当者研修	集合研修 R6.1.17～R6.1.23	6名	【講義・演習】 ・堺市小規模多機能型サービス等計画作成担当者の養成	
	堺市認知症介護実践 リーダーフォローアップ研修	集合研修 R5.10.11	3名	【講義・演習】 ・リーダー研修修了者のスキルアップを図るため、最新知識の習得や実践報告を行う	
	医療従事者向け・看護職員向け認知症対 応力向上研修	集合研修 R5.10.27～R6.1.10	19名	【講義・演習】 ・認知症に関する基本的知識や実践的な対応力を習得し、医療機関内等での認知症ケアの適切な実施とマネジメント体制を構築する	
	病院勤務以外の看護士等認知症対応力 向上研修	集合研修 R5.9.8	21名	【講義・演習】 ・認知症の人や家族を支えるために必要な基本知識や認知症ケアの原則、医療と介護の連携の重要性等の知識について習得する	

4. 専門職研修実施内容

研修名	実施年月日	参加者	内容
保育士研修	R5.8.24、10.12、12.12、R6.1.19、2.6 (5日間)	延べ72名	・感染症対策・虐待防止・乳児保育・発達障がい・保護者支援

